

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1985
10



聖徒の道

1985年10月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：スペンサー・W・キンボール、マリオン・G・ロムニー、ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒定員会：エズラ・タフト・ベンソン、ハワード・W・ハンター、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス

顧問：カーロス・E・エイシー、レックス・D・ピネガー、ジョージ・P・リー、ジェームズ・M・パラモア

編集長：カーロス・E・エイシー

教会機関誌ディレクター：ウェイン・B・リン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ロイス・リチャードソン

レイアウト/デザイン：メアリー・A・ホドソン、C・キンボール・ボット



中央扶助協会会長会

表紙：『家族』ウィーン出身のフェルディナンド・ゲオルグ・ウォルトミュラー画（1793—1865）末日聖徒イエス・キリスト教会所蔵

聖徒の道 1985年10月号第29巻第9号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約/海外予約2,200円（送料共）

半年予約1,100円（送料共）

普通号150円、大会号（1,7月号）350円

International Magazines PBMA0620JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1985 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替（口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512）にてご送金いただければ、直接郵送致します。注：お届け先の変更がありましたら、早急に資材管理部配送センターにご連絡ください。●「聖徒の道」についてのお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター/☎0427-96-2820

●—もくじ

| | | |
|----------------------------|----------------|----|
| 家庭の環境 | ゴードン・B・ヒンクレー | 1 |
| セサル・アエド：無言の語り手 | ドン・L・サール | 6 |
| 親のつとめ——何事にも心をこめて | パトリシア・テリー・ホランド | 8 |
| 子供の反抗 | | 10 |
| 力を合わせて戦う：中央扶助協会会長会との会見 | | 13 |
| ハワイの午後 | クリス・マッケイ | 16 |
| ダリン・H・オークス長老——ほかの使徒たちを見習って | ドン・L・サール | 20 |
| 質疑応答 | ケント・E・パルシファー | 25 |
| 各地のたより | | |
| 子供のページ(別冊付録) | | |
| ハッピーハロウィーン | | 1 |
| イサクとリベカの出会い | 「聖典からの物語」より | 2 |
| どうして立てるの？ | | 6 |

家庭の環境



第二副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

この複雑な時代に生を受け、成長していく子供たちの父親、母親となることは、時に失意さえ伴う大変な務めです。しかし同時に、それはすばらしい、チャレンジに満ちた責任でもあります。私たちはだれでも皆過ちを犯します。実にいろいろな過ちを犯します。そのために心を痛めることもしばしばです。しかしそのような中で、子供たちが幼児から大人へと成長していく姿を目にするとき、私たちの心は誇りと喜びに満たされるのです。

この会には、むずかしい問題を抱え、何らかの援助を求めて集っておられる方もいらっしゃると思います。これまでの話の中にすでにその答えを見いだされた方もおいででしょう。私は皆さんの力になれるよう、主に導きを願ってまいりました。親になるということとはなまやさしいことではありません。多くの悩みや心配事がつきまとい、往々にして夢や希望がくじかれる大変な務めです。もちろん、このような例に当てはまらない、何事についても順調にいつている家庭もたくさんあるでしょう。決して怒鳴り声の聞かえない家庭、やさしく穏やかな両親のいる家庭、これといった問題もなく素直に育てている子供のいる家庭がたくさんあることは、十分承知しています。もし皆さんの家庭がそのような家庭でしたら、ぜひ感謝してください。皆さんの受けているそのすばらしい祝福について主に感謝していただきたいと思います。

しかし実際は、そのような家庭だけではありません。私の手元には、いろいろな問題を抱えた両親や子供たちからの手紙が何通も寄せられています。ああすればいい、こうすればすべてうまくいくと口で言うのは簡単です。しかしまじめで良心的な人々、忠実で正直な人々、教会の教えを熱心に守っている人々の中にも、子供のことで心を痛めている人がいるのです。

私はそうした問題のうちのいくつかにお答えできると思いますが、すべてではありません。実際、このような問題の多くは、私たち自身が作り出しているか、またはあらゆる手を打ったにもかかわらず遭遇してしまうかのいずれかなのです。私の知人に、あるすばらしい方がいます。立派に成長した上の子供たちは、結婚して両親を喜ばせるような生活を送っています。ところが明るい優秀な少年だったはずの下の息子は、高校時代の仲間の影響で道をそれてしまいました。髪を長く伸ばし、服装にも無頓着で、両親の悩みの種になるようなことばかりするようになりました。父親は途方に暮れ、息子を叱ったり脅したりしました。そして涙ながらに祈り、息子を懲らしめようとしてしました。しかし何の反応もなく、息子は気ままな生活をするだけでした。母親の方も涙しながら祈りました。しかし彼女の方は気持ちを抑え、声を荒立てることはしませんでした。彼女は母親として、幾度となく息子に愛していることを伝え

ました。しかしとうとう彼は家を出てしまったのです。母親は息子の部屋をいつもきちんと片づけ、ベッドを整え、冷蔵庫には息子のための食事を用意しておきました。彼女は息子に、家に帰りたくなったらいつでも戻って来るように言っていたのです。つらい数カ月が過ぎました。

やがて母親の愛が息子の心を動かし始めました。彼はときどき家に帰って来るようになったのです。母親は決して小言を言わず、笑顔で彼を迎え、おいしいごちそうを作ってあげました。そして息子を抱き寄せ、愛していることを伝えました。その結果、彼は次第に生活を整え、家に長くいるようになりました。かつて自分が離れていった家庭ほど居心地良く、安心できて楽しい所はないことに気づいたのでしょう。こうして彼は元のまともな生活に戻ったのです。そしてほかの若者たちに遅れをとりながらも伝道に出、すばらしい成功を収めました。伝道から戻った彼は学校に入り、勉学に専念するようになりました。私が最後に目にしたのは、美しい声の持ち主である彼が、同じく美声に恵まれた母親とデュエットをしているところです。この家の事情を知っていた人々は、あふれる涙を禁じ得ませんでした。

私の話に耳を傾けておられる方々で、そのような子供をお持ちの方に申しあげたいと思います。決して努力することをやめないでください。みなさんがあきらめない限り、彼らは決して見捨てられる

ことはないのです。彼らを連れ戻せるのは、愛以外の何ものでもないことを忘れないでください。罰にはそのような効果はありません。愛情のない叱責も同じです。忍耐と理解そして祈りによってもたらされるあのすばらしい力こそが勝利を生むのです。

次に、家庭環境を整えるうえで欠かせない4つの要素を提案したいと思います。皆さんのお役に立てばと思います。(1) 奉仕の精神、(2) 進歩、成長を促す雰囲気、(3) 愛情の込められたしつけ、(4) 祈りの習慣、ぜひこれらの備わった家庭で子供たちを育てていただきたいと思います。

奉仕の精神

私たちの生活にあって、利己心は破壊的で苦痛を生みだすもとであり、精神をむしばむものです。それはまた親子間に緊張をもたらす原因でもあります。利己心は、値のはる不必要なものをせがむ子供たちの欲望を満たすことによってわがままな気持ちを植えつけてしまうお人よしの親たちに、遠慮なくつけ込んできます。

そのような利己心を取り除いてくれるものが奉仕です。すなわち家の内外を問わず、周囲の人々に手を差し伸べることです。利己的な父親のいる家庭の子供は、どうしてもそのような生き方をしてしまうようです。その反面、困っている人々に手を差し伸べることを大きな喜びとしている父親、母親を見て育つ子供は、成長の過程で同じような道をたどるものです。

また父親が教会で奉仕を通して熱心に神に仕えている様子を見ている子供は、大人になって同じような行動をとりますし、母親が悩んでいる人々や、貧しい人々

に手を差し伸べ、困っている人を助けに出かけて行く姿を見ている子供は、成長するにつれて同じような気持ちで行動するようになるものです。

皆さんにお願いしたいと思います。子供たちを利己心のない環境で育てていただきたいと思います。ただし、個人的な欲望に浸ってはいけません。子供たちが、自分の家の中や親しい家族との交際の中に主が示してくださった偉大な原則の真理を見いだせるよう導いてください。主はこのように言われました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ8:35)

進歩、成長を促す雰囲気

若者たちの心が啓蒙され、活気づいていくのを目にするのは実に興味深いことです。私はテレビの与えるすばらしい影響を大いに賞賛する者のひとりですが、同時に人々の心を啓蒙することも活気づけることもしないような番組を子供たちがだらだら見続け、時間と機会を浪費することを嘆く者でもあります。

私は子供の頃、古い大きな屋敷に住んでいました。その中のひと部屋は図書室と呼ばれ、固いテーブルの上に美しいランプが置かれ、まわりには明かりを十分に取り入れた心地良いすがすがしい3、4脚置いてありました。そして壁際には、父や母が何年もかかって取りそろえた書物がケースに納められてぎっしり並んでいました。

私は読書を強制されたことはありませんが、とにかくいろいろな本がすぐ手の届くところにあり、好きなときにいつで

も読めるようになっていたのです。

部屋の中は静かで、そこは学びの場であることがだれにでもわかりました。

本の中には、教会で発行している雑誌やそれ以外の雑誌が数冊あったほか、歴史や文学、専門書、辞書、百科辞典そして世界地図などがありました。当時はもちろんテレビなどはなく、やっとならジオが普及してきた時代でした。しかしなお、だれもが本を通して学習に励もうとする習慣がありました。私たちは学者でこそありませんでしたが、偉大な文学や偉大な思想家の考えに触れたり、深遠な考えを美しく表現した人々の言葉に数多く触れることができました。

今日、どこの家もスペースは限られていて、そのような図書室を設けることは困難だと思います。しかし工夫次第で、部屋の一角をそのような場にあてることができるでしょう。じっくり座って本を読み、考えにふけることのできる、騒音の届かない場所を設けることができるはずです。たとえ質素なものでも、教会の標準聖典や良書、教会発行の雑誌のほかかぶさわしい書物が載ったテーブルや机があるというのはすばらしいことです。

子供たちを早くから書物に親しませてください。小さな子供たちに本を読んであげることをしていない母親は、子供たちに対しても自分自身に対しても大きな損失を招くこととなります。本を読んであげするためには確かに時間が必要ですし、自己鍛練が必要です。また1分、1時間の時間の調節、管理が必要になってきます。しかし、小さな子供たちが書物の中の人物やいろいろな言葉、考えなどを理解していく様を見れば、わずらわしいなどとは思わないでしょう。長い目で見れば、

利己心を取り除いてくれるのが奉仕、
すなわち家の内外を問わず、
周囲の人々に手を
差し伸べることである。



声に耳を傾けておられるすべてのご両親に申しあげたいと思います。家庭の中に学習の雰囲気をかもし出し、それによって進歩がもたらされるよう努力してください。

愛情の込められたしつけ

今日の世に見られる偉大な善と恐ろしい悪は、間違いなく過去の子供たちを育てた人々のもたらした結実です。同様に、私たちが次の世代を担う若人をどのように訓練するかによって、数年後の世界が決まってくるのです。将来に不安を抱いている人は、まず現在の子供の教育、しつけについて考えてみてください。なぜなら、現代社会を席捲している荒々しさは、その大部分がかつて子供たちに向けられた荒々しさの見返りだからです。

子供の頃、私は自分の所属しているワード部が大変気に入っていました。ワード部にはいろいろな人がいましたが、見知らぬ人はひとりもいなかったように思います。当時は転出入者もあまりなく、だれもが親しく楽しんでやっていました。ところが、私にはどうしても好きになれない人がひとりいたのです。はっきり言って、私はその人をひどく嫌っていました。その後私はそうした感情を抱いたことを悔い改めたのですが、今振り返ってみても、そのときの思いがいかに強かったかがよくわかります。彼の子供たちとは仲が良かったのですが、私はその父親を敵視していました。どうしてそれほどまでに彼を毛嫌いするようになったのでしょうか。それは、その父親というのが、ほんのちょっとしたことで腹を立てる気の荒い人で、子供たちを怒鳴りちらし、殴りつける人だったからです。その殴り

読書は子供たちが時間を費やすほかのどの活動よりも実り多い、愛すべき習慣と言えます。「北米では、平均的な就学前の子供たちのテレビ視聴時間が8千時間にも及んでいる」のが現状です。しかもその大半が、首をかしげるような内容のものなのです。

両親の皆さん、家庭内の環境作りに力

を注いでください。子供たちを気高い精神、気高い思想に、また永遠の真理や善への動機づけとなるものに親しませてください。

主は次のように言われました。「^{なんじ}汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また^ま正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88:118)私の



方を私は今でも忘れることができません。

また私の育った家庭環境のせいもあったかもしれません。というのも、私の父親は明らかに体罰に値するような場合でも、穏やかに子供たちを諭す人だったからです。私はその短気な隣人の影響が、彼の子供たちの生活に再現されているのをこの目で見てきました。

あえて申し上げますが、自分はキリストに従う者またこの教会の会員であることを公言しながら子供たちを虐待するようなことがあれば、それは彼らの父である神を怒らせ、救い主や予言者の教えに逆らうことになるのです。イエスはこのように言われました。「わたしを信ずるこ

れらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」(マタイ18:6)

またブリガム・ヤングはこのように言っています。「主を愛し、恐れる気持ちをもって子供たちを育てなさい。彼の気性を知り、それに応じた接した方をしなさい。決して怒りにまかせて正そうとしてはならない。彼らを教えるときに、あなたに愛を感じさせる方法で行なうようにしなさい。恐れさせてはならない。」「(『汝らの子供たちを見よ』「聖徒の道」1979年2月号、p.28)

極端に厳しい、暴力を伴うしつけは決

して子供たちを正しい方向へ導いてはくれません。むしろ子供たちの反感を招くだけです。それでは問題が悪化するだけで、何の解決にもなりませんし、自己敗北以外の何ものでもありません。主が教会管理の原則について啓示されたことは、家庭管理についてもあてはまることです。主は次のように言われました。「如何なる権力も勢力も……維持する能わず、または維持すべきものにあらず、ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる……。

すなわち、聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に

子供たちを気高い精神、
気高い思想に、また永遠の真理や
善への動機づけとなるものに
親しませるようにする。

一層の愛を示す。

かくて、彼は汝の誠実^{まこと}は死のきずなよりも強きことを知るべし。」(教義と聖約121:41, 43-44)

また、パウロはエペソ人に次のように書き送っています。「父たる者よ。子供をおこらせな^{くんと}いで、主の薫陶と訓戒によって、彼らを育てなさい。」(エペソ6:4)

だれもが経験することですが、何か問題に出くわしたときには、まず気持ちを抑えてください。そして次の箴言の言葉を思い起こしてください。「柔らかい答は憤りをとどめ〔る。〕」(箴言15:1)

この世の中で、愛情の込もったしつけに勝るしつけはほかにありません。愛情あるしつけには特有の不思議な力があります。

祈りの習慣

まだ言葉のよく理解できないうちから、やさしい母親、父親の助けを借りて就寝の祈りを口に、祈りの精神を感じ取れる子供は何と恵まれているでしょうか。また、十代の子供たちを含め、朝に夕に家族の祈りを捧げる習慣のある家庭の子供たちは何と幸せでしょうか。

家族が共にひざまずき、主に祝福を感謝することほど、子供たちの心に感謝の精神を育む良い方法を私は知りません。そうした謙遜な態度は、子供たちの心に、神は私たちに貴い賜を送ってくださる方であるという認識を深めさせるうえで大きな力となります。

私はまた、赦しの権能を持つお方に謙遜に赦しを求め、弱点を克服して生きる強さを願うこと以上に、善をなそうとする気持ちを高めさせてくれるものはほか

にないと思っています。

病める人、悲しむ人、飢えと貧困に苦しむ人、孤独で不安を抱えている人、束縛され悲嘆に暮れている人々のために主に祈ることは、何とすばらしいことでしょうか。そのような祈りが思いやりをもって真心から行なわれるならば、困っている人々に手を差し伸べたいという強い気持ちが起きてくるはずで

す。また監督やステーク部長、大管長のことを家族の祈りに加えれば、彼らに対する愛と敬意が一層高まるでしょう。

子供たちに、自分の必要としていることについて、また正しい望みについてどう祈るべきかを教えるのは大切なことです。家族が共にひざまずき、全能者に必要としていることを願うようにしていれば、子供たちは悩みのあるときや窮地に陥ったときに、おのずと父としてまた友として神を慕うようになるものです。

子供たちが小さいうちから、朝な夕なに家族でまた個人で祈ることを習慣としてください。そのような中で成長する子供たちの生活は、永遠に祝福されるでしょう。この教会の両親は、祈りを無視してよいはずがありません。

愛する両親の皆さん、再度申しあげます。家庭の環境を整えるにあたって、以下の4つの事柄を提案したいと思います。

(1) 奉仕の精神、(2) 進歩成長を促す雰囲気、(3) 神のような愛情の込もったしつけ、(4) 神聖な祈りの習慣、以上のことを心に留めて努力してください。

愛する皆さんの上に神の祝福がありますように。

子供たちの前に、また世の人々の前に、正直と高潔のすばらしい模範を垂れてくださっている大勢の立派な両親がいるこ

とを、主に感謝したいと思います。また彼らの信仰と忠実さを、そして主の戒め通り子供たちを光と真理の中で育てようとしておられる大いなる熱意を、主に感謝したいと思います。主の豊かな祝福が皆さんの努力に注がれ、いつの日か皆さん一人一人が年老いたヨハネのように、「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない」(Ⅲヨハネ1:4)と言えるよう、心から願ってやみません。

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに、以下の点を話し合うとよいでしょう。

家庭の中に良い環境を作り出すうえで欠かせない4つの大切な要素

1. 家族やほかの人々に対する奉仕の精神
2. 家族の進歩成長を促す雰囲気
3. 子供たちに愛あるしつけをしようという親の決意
4. 家族が毎日ひとつとなって天父に導きや過ちへの赦しを願う、家族の祈りの習慣

話し合いを進めるために

1. 上記の4項目について、あなたの感じていることを述べる。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。家族関係について、定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

セサル・アエド：無言の語り手

ドン・L・サール

彼は1メートル半の全身を伸ばし、やせた肩を張り、すさまじい形相でヘブライの軍隊に挑む誇り高き巨人戦士ゴリアテになったかと思うと、次の瞬間、石投器を持って軽快に山を越えていく若きダビデに変身します。そして今度は、重い荷を積んだ手車を引いてアメリカの大平原を渡る、疲れ果てた開拓者に

早変わりです。ぎゅっと引きしまった腕の力こぶや、難儀しながら一步一步進む筋骨たくましい脚の動きに苦闘の色がありありと見えます。

終始無言です。でも観客は心で感じ取り、理解します。

セサル・アエドはヨーロッパで急速に名が売れ出したパントマイム役者です。フランス人の師マルセル・マルソーの弟子であり、中南米諸国やドイツ、フランス、スイスで公演したり、テレビ出演したりしています。1984年5月には、アメリカで初舞台を踏みました。そして今や彼は西ヨーロッパの一流サーカスと契約を結んでいます。

舞台の上でも日常生活でも、彼は精力的で、自由で、熱心です。彼が自分の生い立ちを語るのを聞くと、その演技にかける熱意は、そのまま彼が人生にかける

熱意に通じるものだということがわかります。

アエド兄弟は、ペルーのリマ出身の帰還宣教師です。仕立屋であった彼の父は、家族に生活必需品さえ満足に与えられませんでした。しかし若きセサルは教育を受けたいと心から望み、また伝道に出るべきであるという予言者の勧告に従いたいと思いました。そしてその祝福を受けるには、自分で努力しなければならないことを知っていました。そこで——1982年度の初等協会のテキストに載っているとおり——彼は学校の近くで車を洗う仕事をして学費、そして後には伝道の費用を稼ぎました。伝道は彼にとって大きな意義があったので、盲腸炎にかかったときも長いこと休んではいませんでした。手術を受けて5日後にはもう伝道生活に戻ったのです。「私にはやるべき仕事があります。私は宣教師ですから。」彼はごく当たり前のことのようにそう言うのです。

伝道の後、彼はリマのヴィラリアル大学で社会学を学びました。けれども一番好きなのは劇を演じることでしたので、それも学びました。実を言えば、演技の勉強を始めたのはまだ6歳のときでした。彼は当時所属していた教会の宗教教育クラスに必ず出席していましたが、それはレッスンの後で子供のために古い映画を上映していたからです。彼はバスター・キートンやチャーリー・チャップリンやハロルド・ロイドの無声喜劇映画に夢中でした。

宣教師が家族に福音を宣べ伝えたのは、セサルが9歳のときでした。そして11歳のときにはもうLDS支部のタレントシ





ヨーで演技するまでになっていました。ヴィラリアル大学で学んだ後、アエド兄弟はさらに進んで政治学を学ぶためにヨーロッパへ行きたいと思いました。中南米諸国でパントマイムの公演をして働き、ヨーロッパまでの飛行機代をためました。「才能を伸ばすためにヨーロッパへ行ったのです。それだけでした」と彼は回想します。

ところが、神のみこころでしょうか、彼はすぐには入学することができませんでした。1979年末から1980年初頭にかけての数週間、彼はスイスのジュネーブにいる姉を訪ねました。その間に、政治学ではなく、マスターと広く認められた人に就いてパントマイムを学ぶことを決心したのです。もしたゆまず励めば、信仰によりそれが実現することをアエド兄弟は知っていました。そこで彼はパリに戻り、一生懸命努力してとうとうマルセル・マルソーに会い、弟子に加えてもらいました。

彼はマルソー氏のもとで3年間学びました。パントマイム芸だけでなく、舞台芸術、古典・現代舞踊、アクロバットそしてフェンシングまで学びました。彼は週末の公演と夏の巡業で学費を稼ぐことのできる数少ない生徒のひとりでした。現在は、師匠を教えた人、すなわちマルソー氏の86歳の師であるエチエンヌ・デクルーに師事しています。また古典舞踊の勉強も続けています。

彼の芸術の中心は喜劇です。独特の寸劇をひとつご紹介しましょう。旅行者が出発しようとする、ぎゅう詰めのスーツケースがびくともしません。持とうと

したスーツケースは^{こんしん}渾身の力を込めても動きそうにもありません。ところがスーツケースを開けてハンカチを1枚取り出すと、スーツケースは簡単に持てるようになります。

彼の芸術には霊的な面もあります。「私はキリストを深く信じています」と語る彼は、救い主が教えられたとおり、才能は人を助けるためにこの世で私たちに与えられたものであることを強調します。アエド兄弟は、わかりやすい方法で自分の才能を使って人々を助けています。人を楽しませ、人生の明るい面を描きたいと望んでいるのです。聖典の中の物語を劇化するのも得意で、わかりやすく表現します。神に捧げ物をする謙遜な信心深い兄弟になったかと思うと、次には高慢で

嫉妬深く残酷な兄弟となります。観客は、アベルの敬虔さとカインの復讐^{ふくしゅう}心を感じ取ることができるのです。

セサル・アエドの芸術は、金銭的な方法でも人を助けています。公演からの利益で彼の兄弟のひとりがカナダへ伝道に出、ほかのふたりの兄弟がパリの学校を出ました。「私は家族みんなを助けることができました。自慢するつもりはありません。そうできたことを神に感謝しているのです。」

30歳になった今、彼はパリの独身者ワード部に出席しています。これまでの人生は、仕事と勉強と奉仕の毎日でしたが、これからは結婚して家庭を築くことを楽しみにしています。「ヤ・ヴィエン」と彼は言います。それはスペイン語でよく使われる表現で、「そうなるでしょう」という意味です。

親のつとめ—— 何事にも心をこめて

中央若い女性第一副会長

パトリア・テリー・ホランド

には、それが最高の召し、最も尊い務めであるという認識が生まれながらに具わっていて、それだからこそ、些細な失敗が傷跡を残す絶望を引き起こすこともあるのです。

良かれと思い、心を込めて務めても、子供が私たちの望むようにならないことはあります。子供と心を通わせることがとてもむずかしい場合があるのです。学校で苦勞しているのかもしれませんが、心に悩みがあるのかもしれませんが、あるいはひどく内気なのかもしれません。子供たちが依然として不安定であるのは、様々な理由があるのです。

また、子供にたとえ問題がなくても、常に不安は去らず、どうしたら子供をそのような苦しい道から遠ざけられるか悩みは尽きないようです。ふと手のすいたときに、「私はこれでいいのだろうか。子供たちは大丈夫だろうか。お尻をたたいた方がいいのか、それとも話して聞かせた方がいいのか。やめさせるべきか、大目に見るべきか」などと考えたりします。どんなに立派な親でも、現実を前にしては、親として不安を覚えるものです。

私は先日、自分がまだ若い心配性の母親であった当時の日記を読み返してみました。

「子供たちの心を傷つけることは決してしないようにと、いつも祈っている。もし何かで傷つけてしまったとしたら、知らずにしたことだと子供たちにわかってもらえるように祈っている。軽率な言動を後悔して泣きたい気持ちになることがよくあるけれど、悪いことは繰り返さないようにしたい。子供たちに抱いている夢を私の方から壊すようなことをしてなければよいのだけれど。助けと導きが本当に欲しい。失敗したと感じるときには特に。」

子供との
コミュニケーションは、
技術よりも
心かけの問題です。

先日、赤ちゃんはどうして泣くのと聞かれた4歳の女の子が、そばにいた赤ちゃんを見つめ、少しの間考えてから、「あのね、髪の毛がなくて、歯がなくて、あんよもピクピクしていたら、おばさんだって泣くでしょう」と言いました。

私たちはみんな、泣きながら、そして少し身を震わせながらこの世に生まれて

きます。両親が可能性のかたまりである新生児を腕に抱き、その子が十分ひとり立ちできるまで愛し、導き、育てることは、学びの最たる奇跡、芸術の極みであると思います。

主は最初の両親を造られたとき、ご自分に驚くほど近いものとしてお造りになりました。子供に生命を授ける私たち

それから年月を経て日記を読み返してみると、母親が神経質であった割には、子供たちは立派に成長したものだと感じます。そう申しあげるのも、自分が皆さんとまったく同じ母親であること、つまり過去の間違いを負い目とし、現実には不安だらけで、将来の失敗を考えおのくひとりの親であることを、何より知っていただきたいと思うからです。この言葉を読む親である皆さんに、ぜひ希望を持っていただきたいと思います。

私たちのほとんどは子供の発育について専門家ではないのですから、私が専門家から次にお話しするような言葉を聞いてどんなに励まされたか、想像がつくことと思います。ある日、プリガム・ヤング大学に勤めておられる方が私におっしゃいました。「パット、親の仕事というものは教育とほとんど関係がないんですよ。要は心です。」どういうことかと尋ねますと、その方はおっしゃいました。

「子供と通い合うことができないのは、自分の力不足だと考える親がいます。しかしコミュニケーションというのは、技術よりも心がけの問題なのです。謙遜な気持ちで、子供のために思う愛が心にあれば、それによってコミュニケーションはできていきます。子供は私たちのその努力をわかってくれます。ところが、私たちが短気だったり、敵意を持ったり、怒りっぽかったりすると、どんなに言葉を選んで自分の気持ちをカモフラージュしても、ちっとも役に立ちません。子供たちは私たちの心をしっかり見抜きます。」

モルモン経のヤコブは、天の門を開いてほしければ、神の前に深くへりくだり、自分は愚かな者であることを認めなさいと言います。(IIニーファイ9:42参照)

自分の間違いを認めることができるということも含めて、その謙遜さというのが、神の助けを得るにも子供たちの尊敬を受けるにも、一番大切なものであるように思います。

私の娘は音楽の分野で秀でています。その才能を、私はピアノに向かう彼女に目を光らせ、奴隷を見張るようにして練習を監督していた結果であると、長いこと思っていました。しかし娘が十代の初めの頃のある日、そうした態度が一時は有効だったにしても、今は母子の中に目に見える悪影響を及ぼしていることに気

づいたのでした。私は、娘が天与の才能を十分に開発できないのではないかという心配と、そのことがもて親子関係が日に日に悪化しているという現実には挟まれて悩み、私の母が重大な問題に出会ったときにしていたとおりのことを自分もしました。ひとりだけになれる場所に行き、娘との絆を保つ知恵を求めて、天使の口から来る知恵と助けを求めて、心を打ち明け、祈ったのです。祈り終わって立ち上がると、私は何をなすべきか悟りました。

それはちょうどクリスマスの3日前のことでしたので、メアリーにプレゼントと小さなカードを送りました。カードにはこう書きました。「大好きなメアリー、まるで警察官みたいにピアノのわきに立って、あなたと衝突したこと、ごめんなさい。愚かな母に見えたことでしょう。許してください。あなたはあなたで成長しているのです。私はあなたが才能を磨かなかつたら自信や達成感が得られないのではないかと、心配だっただけです。愛しています。母より」

同じ日その後で、娘は私を捜しに来て、家の中の静かな片隅に誘い、このように言いました。「お母さん、お母さんが私に一番良いことを願っているって、私わかるの。これまでだって、いつだってわかっていたわ。でもこれからピアノが上達するには、お母さんじゃない、私が練習するのよ。」娘はそう言って私に腕をまわし、目に涙をためて言いました。「そのこと、どうやったらお母さんに伝えられるか、ずっと考えていたの。そしたら、お母さん、自分の方からわかってくれた。」

それから数年して、メアリーと私がそのときの思い出話をしたときのことです。メアリーは、私が「ごめんなさい。私が間違っていたわ。許してください」と率直に言ったことで、自分が価値ある存在だということを実感できたと話してくれました。メアリーは親から許しを請われるだけの人格を認められていたこと、子供が正しいこともあるのだということ、その言葉が物語っていたからです。個人的な啓示は、神のみ前に自分を愚かな者と思わないで得られるでしょうか。子供の心に触れ、子供に教えるには、私たち自身もっと子供のようになることが必要なのではないでしょうか。子供に繰り返

し説教し、威圧し、小言を言うのではなくて、自分の望みや喜び、あるいは心にしまっている恐れや苦しみを語るべきではないのでしょうか。

最後に、最近経験した出来事をお話したいと思います。

私の息子のダフィーのことです。彼は11歳で学校のフットボールチームに入っていますが、続けて3日も、家の中の物陰から飛び出せば、私に本式のタックルをしかけてくるのです。3日目には、彼の攻撃を避けようとして床に倒れた拍子にフロアランプを倒してしまい、おまけに右ひじで目の上を強く打ってしまいました。頭に血が上った私は、タックルの練習台にしたことを叱りました。

そのとき、ダフィーが両ほおに涙を伝わせながら言った返事に、私の心は和んだのです。「でも、お母さんは、一番の友達なんだもん。ぼくとおんなじに楽しいだろうと思ってたんだ。」それからこう言いました。「前からね、ぼくがトロフィーをもらったとき、最初のインタビューで何と言おうか決めていたんだ。どうしてそんなに上手になったか聞かれたら、『お母さんと練習したんです』って答えるんだ。」

どの子も母親と練習することが必要です。そしてもっと大事な意味合いで、どの母親も子供と練習することが必要です。それが、親子として救いを勝ち得るための、神様が用意された方法なのです。私は先ほど、人間は泣きながらこの世に生まれてくると申しました。人生の目的の中に人を謙虚にすることがあることを考えれば、私たちはこれからも折にふれて、ひと粒ふた粒の涙を流し続けることは確かです。でもそれだからこそ、子供は私たちの子であると同時に神様の子供なのだということを、いつも忘れないでいられるのだと思います。また何よりも、私たちに助けが必要なときは幕の向こうにその助けを求めることができますから、確かな明るい希望があります。

神の用意された経験を一人一人が身に負うとき、神は決して私たちを見放されないと証しいたします。私たちも子供たちを決して見放してはいけません。自分自身を見放してもいけません。イエス・キリストのみ名により、お話し申しあげます。アーメン。

子供の反抗

親

は子供が謙遜で神の律法に従順な人に成長するように望んでいます。けれどもすべての子供がそのように成長するとは限らず、反抗的な子供を持つ親は多いものです。従順を生み出すのに子供への愛と関心だけでは十分ではないことを私たちは知っています。愛情に恵まれ十分な教育を受けた子供であっても、反抗的になることもあります。そうした子供は大切な家族の規則や福音の原則を故意に破り、長い間反抗的な行動を続け、しかもそうした行動に対して何ら悲しみを示さないことが多いのです。彼らの行動には、神への冒瀆、不道德、アルコールや薬物の濫用、無断欠席などがあります。こうした反抗は、多くは教会活動を欠席することに始まります。

子供は、選択の自由が与えられていますから、ときには間違っただけを選び方をします。だれに対しても正義を強制することはできませんが、訓戒と模範により教え、そして聖霊の力を感じて正しい選択をするよう祈ることができます。反抗的な子供に親は落胆しますが、従順になることを子供に強制してはいけません。それでもなお私たちにできることはたくさんあるのです。

反抗的な行動は、子供の要求が満たされない結果であることが多いのです。もし家庭に愛と尊敬に満ちた雰囲気があれば、子供は親の教えに従いたくないと思うでしょう。子供は成長とともに判断する自由を必要とし、またその自由を用いることから学ぶのです。規則で子供をしめつけたり、あまり厳しく要求しすぎたりすると、子供はただ私たちに困らせるために反抗します。他方、過度に自由放任し、子供と一緒に過ごす時間を十分取ってあげなければ、子供は無視されていると感じるでしょう。そうすると今度は、私たちの注意を引くために反抗する

のです。

また、大人の悪い模範を見ると、子供は反抗するようになる恐れがあります。私たちは偽善的に——口ではいいことを言いながら実際には違った行動をとって——子供に従順になるよう期待することはできません。たとえば、好ましくないビデオ映画を家に持ち込み、「悪い箇所」を早送りして（すでにその映画を見たのでそれができるわけです）子供には良い映画を選択するよう期待する、といったことはできません。

子供は時折、家族の規則を破ることによって、自分が独立した存在と認められているかどうかを試してみることがあります。この種の行動を見過ぐすのは誤りです。家族の規則を破らずに独立心を得る方法はたくさんあります。小さい頃から断固とした態度で、しかも公平に、そして首尾一貫した態度で、許される範囲について教えることにより、成長後の過度の反抗心を避けられるようになります。

親は子供の非行について自責の念にかけられることがよくあります。自分たちのせいであるかないかは別として、自己非難して過ぐすことは有益ではありません。また、ほかの人々が私たちが非難していると思うことも建設的とは言えません。私たちはこうした挫折感から、教会や私たちにとって益となる人々から遠ざかることがよくあります。でも、問題があることを認め、それを解決しようと努力する方がずっと良いのです。

では、反抗的な子供を助けるために親として何ができるか考えてみましょう。

まず第1に言えることは、自分自身をはっきりとよく見つめることです。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老はこのような助言を与えています。「両親は、まず最初に問題の中で一番苦しい部分から取り組まなければならない。つまり、息子や娘を非難したいときに、自分自身のことを振り返るのである。変わらなければならないのは、子供ではなく、あなたである。

あなたの行ないがひとつの原因であるとき、あなたはたとえ正しいと思っし

たことでも、それまでの行ないをやめ、子供がある振る舞いをやめようなどと期待することもやめなくてはならない。

今すぐ考えてみなくてはならないのは、子供のことでなく、あなたのことである。

さて、もしそのことを受け入れてくださるのなら、親であるあなたに具体的な方法をお話ししたいと思う。……

また、もし信仰と教会の教えを無視しながら解決したいと思う人があるなら、その解決法は決して見つからないと申しあげる。……

両親が神がおられることを知り、私たちがその子供であることを知れば、問題に対して次のように対処することができ、やがて勝利を取めることができるであろう。……

奇跡が起こらねばというのか

では奇跡が必要というのに

なぜそれが起こらぬのか」(『家族と柵』「聖徒の道」1971年5月号, pp.142-43)

親として私たちは自分自身の行動をよく見つめ、改善していく必要があります。多くの場合、親の行動の選択において最も重要なものは、子供との関係を再び確立すること（あるいは初めて築くこと）です。

子供は、寂しい、無視されている、あるいは価値がない、と感じているために反抗することがよくあります。私たちの注意を引くために良くない行動を取るのです。こうした気持ちは、子供と一緒に過ごす時間を多く取ることによって改善していくことができるでしょう。改善には時間と犠牲を要します。子供と（子供「に」ではなく）話し、子供と一緒に行動する必要があります。

ある少女が非行少女グループとつき合い、その行動——飲酒、深夜のパーティー、無断欠席——が家庭の不和の種となっていました。間もなく両親と交わすわずかの会話は、声高な非難に満ちたものとなりました。母親はとうとう自分たちの関係があまりに悪化してしまったことに気づき、何とかしなくてはならないと思うようになりました。

娘は母親と一緒に行動することを極端に嫌がっていましたが、毎朝学校に送ってもらうことには反対しませんでした。最初の2、3週間はぎこちなく過ぎました。会話はイエスカノーで答える簡単な質問だけでした。けれども時がたつにつ

れ、娘は母親が自分を批判したり非難したりしているのではないことがわかり、母親に心を開き始め、生活の様子や心に感じていることを話すようになりました。朝のドライブは親しさにあふれた心地良い会話の場となり、娘は母親が誠実な友であることがわかりました。


反抗的な子供には、絶えず愛情を注いでやらなければなりません。たとえ子供

の行動に賛成できなくても、家族の輪の中で子供を受け入れ、愛することができるのです。

反抗的な子供を受け入れるということは、子供が私たちを利用するに任せるとか、他人を傷つけ続けることに目をつむる、とかいった意味ではありません。ある未亡人の十代の息子が、家の中でタバコを吸おうとしました。彼女は息子に家

の規則を話し、こう言いました。「お前を愛していますよ。でもこの家では福音の標準を守らなければいけません。」息子が家出をすると脅したので、彼女はこう答えました。「いつでもここへ帰っていらっしゃい。どこにいてもお前を見守っていますよ。でもここにいるときは、この家の規則は変わりません。」

反抗的な子供にばかり情熱を注いでほ



子供は、選択の自由が与えられていますから、ときには間違った選び方をします。だれに対しても正義を強制することはできませんが、訓戒と模範により教え、そして聖霊の力を感じて正しい選択をするよう祈ることができます。

かの子供たちを放置すべきではありません。反抗的な子供のために多くの時間と財産を費やしたとしても、ほかの子供を無視することはできません。反抗的でない子供に対しても責任があるのです。

また、配偶者への配慮と一致も大変重要です。反抗的な子供のために両親の仲が不和になってはいけません。

望みはあります。でも、忍耐強く、そしていつでも援助を受け入れる姿勢が必要です。七十人第一定員会のローレン・C・ダン長老はこのような助言を与えています。

「親たちが信じて家庭の中心としている道徳や行ないの決まりというものを子供が無視し、彼らの行ないを正し、より良くしようと思って行なう親の努力にことごとく子供が反抗するときに、親たちがいかに彼を見放そうとしているかについてお話ししよう。

周知の如く、現代の悲劇は多くの若者が家を離れてさまよい、問題の渦中に入ったり、社会に問題を引き起こすことである。永遠の御父も彼らを息子娘として心配しておられることを、我々は知っているだろうか。

両親の方々、どのような困難に遭おうとも、たとえ何が子供たちをそこへ連れて行ったにしても、決して子供たちを人生の暗みや危険な道に置き去りにしないようにしていただきたい。彼らが自覚めるとき、それはつらく長い道かもしれない。しかし、彼らが我々を必要としているとわかったときに、彼らを失望させることのないよう、心より祈るものである。」(『我々を頼りとできるだろうか』「聖徒の道」1971年5月号, pp.140-41)

決して子供を見放してはいけません。彼らに正しい原則を教えるとともに私たち自身の生活を必要に応じて変化させ、常に彼らを受容するならば、反抗的な子供の多くは行動を改めることでしょう。もちろん長い年月が必要かもしれません。でも、望みは失わないようにしましょう。

反抗的な子供についての重荷を自分たちだけで負う必要はありません。家族以外の人と重荷を分かち合うことは大変有益なことです。監督や親しい友人、カウンセラー、同じ体験を持つほかの親などは大きな支えとなってくれます。また主は私たちの最大の心の支えであり、心配事をいつでも話すことができます。

正義感の強い親にとって、反抗的な子

供の存在ほど苦痛なものはありません。家族の規則や戒めにひどく歯向かう子供に接していると、忍耐の限界に達することがあるでしょう。けれども罪悪感にさいなまれ、自信を喪失しているだけでは事態を良くすることにはなりません。それよりも、主に救いを求めることです。主は私たちがそのような行動に耐える力を得ることができるよう祝福してください、改善のために私たちにできることを靈感によって知らせてくださいます。

さて、そのように主は私たちのすべての努力を祝福して下さいますが、主が行なわれるのはそれだけです。たとえ子供でも自分のことは自分で決めなければならず、救い主も私たちも彼らに強制することはできません。よく助けて励ますだけです。

「子供には正しい行ないをする権利も、間違った行ないをする権利もあり、いずれにせよ両親は子供を見捨てないことを知る権利があると思います。」(「クリスチャン・サイエンス・モニター」1970年9月9日、ローレン・C・ダン引用。前頁22節の注釈参照)

実行しましょう

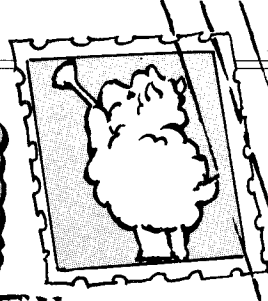
あなたの家族への応用として、以下の事柄を考えてみましょう。

1. あなたの子供が反抗的であれば、子供へのあなたの関心度を子供がどう評価しているか、考えてみてください。子供にもっと関心を示すにはどうしたらいいでしょうか。今週は何をしたらいいでしょうか。子供と共にどんな習慣を築くことができるでしょうか。
2. あなたの行動によく注意してください。あなたの行動の中で子供の反抗の種になっているものはないでしょうか。あなたの行動を変えるためにはどうしたらいいでしょうか。
3. あなたの子供はどんなものに関心を持っていますか。趣味は何でしょうか。友達はいませんか。どんなテレビ番組を見ますか。どんな音楽を聞きますか。テレビや音楽の中で、子供に悪影響を与えているものはないでしょうか。そうした悪影響を最少限に食い止める方法を考えてください。
4. 子供のために祈りましたか。必要なら断食をしましたか。

反抗的な十代の少女は、母親と一緒に行動することを極端に嫌がっていましたが、毎朝学校に送ってもらうことには反対しませんでした。最初のうちはぎこちなく、朝のドライブは心地良いものではありませんでしたが、時がたつにつれ、娘は母親に心を開き始め、生活の様子や心に感じていることを話すようになりました。



各地のたより



東ドイツとスウェーデンで神殿が完成

西ドイツでは神殿の^{くわ}鋤入れ式



●共産圏諸国の中で初めて建てられた東ドイツのフライベルク神殿。6月に行なわれた一般公開には9万人が訪れた。

去る6月29日から7月4日までの6日間であつた2つの神殿が献堂され、ひとつの神殿の鋤入れが行なわれた。献堂されたのは東ドイツのフライベルク神殿（6月29、30日）とスウェーデンのストックホルム神殿（7月2-4日）で、鋤入れが行なわれたのは西ドイツのフランクフルト神殿（7月1日）である。

フライベルク神殿

フライベルク神殿は、ヨーロッパ大陸ではスイス神殿に次いで2番目に建てられた。しかも共産圏諸国の中で初めて建てられた神殿ということで注目に値する。献堂式にはリビート・セッションを含めて2,368人の教会員が参加、ペンテコステさながらのみたまに満ちあふれた集会であった。

スเปนサー・W・キンボール大管長の指示のもとに準備された献堂の祈りは、第二副管長のゴードン・B・ヒンクレー長老が捧げた。献堂式に列席した教会幹部は、ヒンクレー副管長のほかに、十二使徒定員会会員のトーマス・S・モンソン長老、七十人第一定員会会長のW・グラント・バンガター長老、七十人第一定員会会員のジョセフ・B・ワースリン、ジョン・ソネンバーグ、ハンス・B・リンガーの各長老、それに前ヨーロッパ地域会長のロバート・D・ヘイルズ管理監督である。

フライベルク神殿は世界で33番目、キンボール大管長の管理のもとでは18番目に建てられた神殿ということになる。ヒンクレー副管長はこう語った。「これで東ドイツの人々が主のすべての祝福を受け

られるようになりました。神殿の完成は、教会員の方々の偉大な信仰と献身、ならびに主のみ手がある政府関係の方々の心が和らげられた結果であると確信します。……50年前、私は若き宣教師としてドレスデンやライプチヒの町々を訪れました。当時は、この地に神殿が建つなど夢にも思いませんでした。」

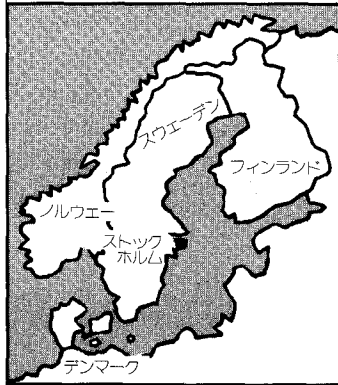
今回の建設に関する行政関係者の対応はきわめて好意的で、新築された神殿の写真が昨年のクリスマスのフライベルク市報の表紙を飾ったほどである。

ストックホルム神殿

北欧初の神殿は7月の2日から4日にわたり、ゴードン・B・ヒンクレー副管長の手で献堂された。神殿が建立されたバステルハニングは人口約6万1千、スト

各地のたより

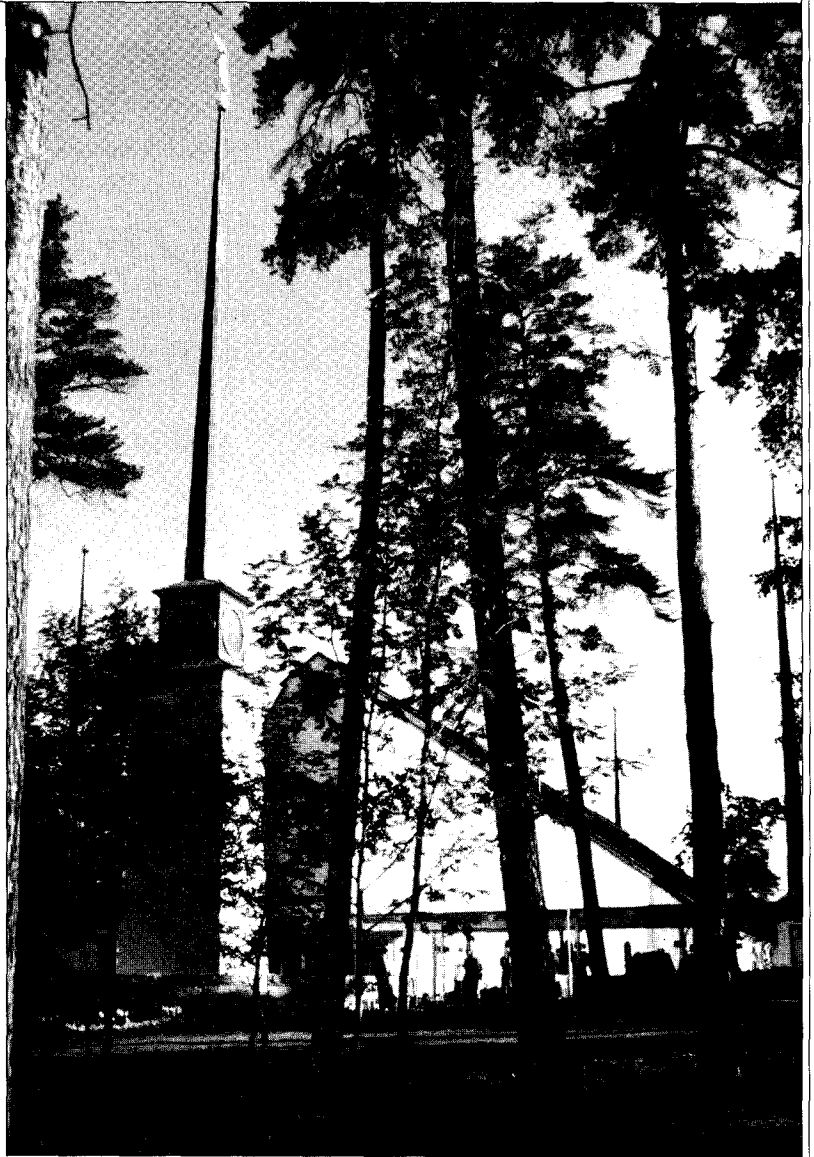
●スウェーデンのストックホルム神殿。スウェーデン、ノルウェー、デンマークの教会員の用に供することになる。一般公開には約4万7千人が訪れた。



ックホルムから20キロ南東に位置する町である。建立の地は遠く紀元前500年に先祖たちが定住を始めたと伝えられる地である。ストックホルム神殿は、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの18,500人の教会員の用に供することになる。

11回に及ぶ献堂の式典には、延べ5,234名の教会員が出席し、4回のセッションがスウェーデン語、3回がフィンランド語、2回がノルウェー語とデンマーク語に通訳された。

献堂に先立って行なわれた一般公開には47,609人が入場、1,215人分の記名アンケートが回収できたが、そのうち700人以上が神殿の位置するストックホルム第2ワード部の区域内の人々で占められ、その関心の高さを物語っている。また郵便局では駐車場に特設事務所を設け、天使モロナイを描いた記念スタンプを神殿の絵ハガキに押すサービスも行なった。



フランクフルト神殿

鍔入れが行なわれた神殿用地は、フランクフルト郊外にある人口2万5千の小さな町フライドリヒスドルフの中心部に位置する。用地の獲得は地元の他教派の反対運動などにあつて難航を極めたが、最終的に町議会37名のうち21名の賛成を得て決定した。町議会での決定後は友好的な雰囲気が高まっているという。

鍔入れ式を管理したゴードン・B・ヒンクレー副管長は、これは1910年に当時のジョセフ・F・スミス大管長がほんの一握りのドイツ人教会員を前に語ったことの成就であると述べた。スミス大管長の言葉はこうである。「やがてこのヨーロッパの地に、主の神殿が林立する日が訪れることでしょう。」

東京・静岡地区ステークス部宣教師大会

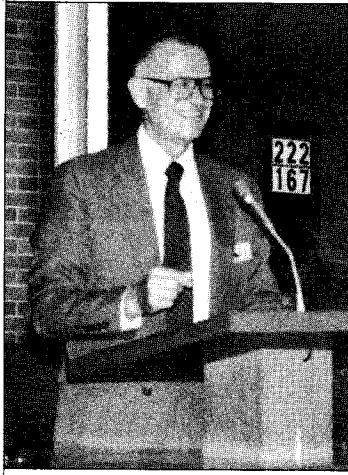
—6ステークス部から120名が参加—

去る7月20、21日の両日、「誠にその声はこの地より出で行きて、全世界と世のあらゆる隅々までも及ばざるべからず」（教義と聖約58：64）をテーマに、東京・静岡地区6ステークス部合同のステークス部宣教師大会が東京ステークス部センターにおいて開かれた。この日、各ステークス部のステークス部宣教師、七十人、伝道担当高等評議員ら120人が集まり、相

良健一地区代表を始め、ロバート・D・グッドウィン東京南伝道部長、新山靖雄東京ステークス部長、前田修東京南ステークス部長、森村久男町田ステークス部長、浅間玄也横浜ステークス部長らの指導の下に、まことにその声を「世のあらゆる隅々までも及」ぼさんがための訓練が行なわれた。

これは、伝道部長が一堂に会した4月

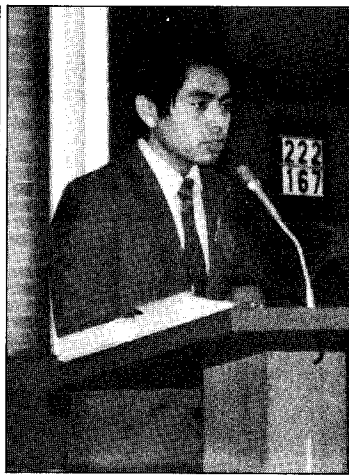
各地のたより



ロバート・D・グッドウィン伝道部長



浅間玄也横浜ステーク部長



前田修東京南ステーク部長



相良健一地区代表

のソルトトレックでの大会の折に紹介された新レスンプラン「福音の標準教授法」をステーク宣教師にも紹介し、必要な訓練を行なうというものである。

第1日目、10時に始まった開会行事では、グッドウィン伝道部長の歓迎の言葉の後、「世を変える手だてはまず人の心を変えることであり、最も価値あることは福音を宣べ伝えることである」(教義と聖約15:6 参照)と浅間ステーク部長が伝道の意義を述べ、続前田ステーク部長

は、ジョセフ・F・スミスの死者の贖いに関する示現中の「生まれる前から霊界において基本的な教えを受け、主の定められた時に出て行って人を救うために主のぶどう園で働く準備をしていた」(56節)という聖句から、召されている宣教師たちの前世での予任を指摘した。また最後に相良長老が、時間があるからするのではなく、時間を作ってなさねばならない、と責任を果たすことの大切さを強調した。

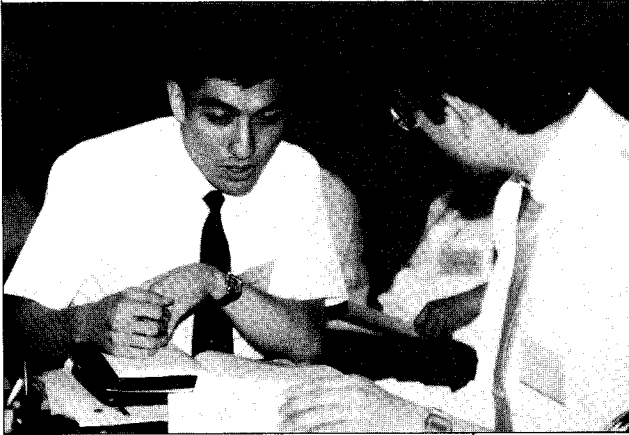
午後からは、夜の9時半まで夕食の1時間をはさむ7時間半にわたって訓練部会が持たれた。南伝道部の宣教師たちが中心となり、新レスンプランの基本となる「みたまに従う」「信頼関係を築く」「決意を促す」ことの具体的なやり方が提示され、様々なケースをかんがみロールプレイングを行なうなど、本番さながらの訓練がなされた。

第2日目は、午前中一杯、新しいレスンプランを実際に使った練習が行な



●東京ステークセンターで行なわれた東京・静岡地区ステーク宣教師大会に集まったステーク宣教師、七十人、指導者たち

各地のたより



●新しいレスンプランの教授法に基づいて練習をするステーキ部宣教師

われた。従来のものは、レスンプランを一言一句正確に暗記することが求められたが、今回のものは、「レスンプランを教えるのではなく人を教えるのである」という考えから教授法に工夫がなされ、自分の言葉でレッスンできるようになっている。これにより、教え方にも柔軟性が生まれ、宣教師はより霊的に、しかも求道者の必要に応じたレッスンをこなうことが可能となった。

午後には、聖餐会と断食証会が持たれた。聖餐の祝福とパスを副伝道部長、ステーキ部長といった指導者みずから行なう普段とは趣を異にした光景が見受けられ、今回の大会に寄せる指導者の並々ならぬ伝道への思いが伝わってくるようであった。証会にはステーキ部宣教師が引きも切らず壇に立ち、宣教師として召されている喜びと決意を力強く証し、2日間の大会は幕を閉じた。

次に挙げるのは、大会に出席したある姉妹の証である。

「ステーキ部宣教師大会に出席してまず圧倒されたのは、その規模の大きさと、出席されている指導者の顔ぶれ、そして、この会を開くにあたってなされた多くの方々の犠牲でした。フルタイム宣教師たちも、主催者側として、伝道時間が少なくなるにもかかわらず、周到な準備をして会の進行に携わり、実際に伝道をしている者として教えてくださいました。伝道部長のご家族も全員で迎えてくださいました。

迎えてくださる方々の熱意と、また出席したステーキ部宣教師の人数の多さと熱心さを見ると、今、伝道の業の歩み

がもっと速められるようにと、神様が期待されていることを感じずにはおれません。また、ステーキ部宣教師が確かに神様から召しを受けて福音を宣べ伝える責任にあることを、再認識させられました。

伝道が確かに神様のみ業であり、そのために惜しまず犠牲を払っている人々を見るのは、大きな励ましであり、力強い証です。主がこの地に遣わしてくださった伝道のみ業に携わるすべての人々に、変わらぬ主の導きがあり、この働きがさらに速められますようにお祈りいたします。」

今回のように地区単位でのステーキ部宣教師の大会はまったく初めての試みであったが、ソルトレークの教会管理本部から新レスンプランの動向調査のために来日し、今大会にも参加したシリル・A・フィギャラス兄弟（新レスンプラン制作スタッフ、世界における当教会改宗

者の動機調査を行なっている）によると、ステーキ部宣教師のみならず、ステーキ部の指導者が寝食をともにする訓練会は、アメリカにおいても前例がなく画期的なことであるという。このようなことから、このステーキ部宣教師大会は東京・静岡地区内だけにとどまらず、日本における伝道活動をより一層推し進めることへの先がけとなるであろう。

〔フィギャラス兄弟の全世界における改宗者の入信動機調査によると、入信のきっかけのほとんどは、「宣教師の愛を感じたから」とか「信頼できる人が教会にいるから」などといった宣教師や教会員の温かいフェロウシップによるものである。教義そのものだけによって改宗した人は全体の20パーセントにしか過ぎない。求道者との個人的信頼関係を築くことが私たちに与えられた最大のチャレンジであることを浮き彫りにしている〕

岡山ステーキ部扶助協会「創作まつり」

—山陽地区、山陰地区に分かれて発表会—

私 たち岡山ステーキ部扶助協会では去る7月20日（土）「創作まつり」を開催いたしました。

「わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っている」（ローマ12：6）と聖書には書かれています。また恵みとして、予言すること

や奉仕、勧め、寄付、指導、慈善などが挙げられていますが、才能もまた恵みの賜だと思えます。天父は一人一人に異なった才能を与えてくださっています。天父の与えてくださっている才能を多くの人々と分かち合い、学び合うことは、ひいては天父が喜ばれることだと思いま

各地のたより



●岡山支部の姉妹たちによるミュージカル「開拓当時の姉妹たち」



●作品展の一部

す。

そこで、各ワード部、支部ごとに、それぞれの姉妹の才能を持ち寄り生かし合って、発表会を行なうことにしました。出し物は劇、コーラス、合奏、ファッション、即席揮毫きごうなど何であつてもよいことにしました。

これらをみんなで創り出すことは、参加する姉妹たちがお互いによりよく知り合う機会となり、共に力を合わせることで、団結力を強め、姉妹同士の絆を一層強めることにもなります。また、姉妹として必要な知恵を磨くことにもなり、そのことが「家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ、また、へやは知識によってさまざまの尊く、麗しい宝で満たされる」(箴言24：3-4)ようになると思ひました。

そして7月20日(土)、そのようにして創り出したものをステーキ部全体で発表し合つたのです。私たちの岡山ステーキ部は広い地域にまたがっているため、全部の支部、ワード部が一堂に集まることがむずかしく、同日同時刻に山陽地区、山陰地区に分かれて行ないました。山陽地区は、倉敷ワード部を会場に岡山、岡山西、倉敷各ワード部と福山、津山各支部が集まりました。山陰地区は米子ワード部を会場に米子、松江各ワード部、鳥取、出雲、倉吉各支部が集まりました。

ミュージカル、絵画、ファッションを兼ねたパーティー、子供のための衣食住の工夫など、各支部、ワード部の姉妹たちの

持ち味を生かした発表が次々と展開されました。中には兄弟の賛助出演もあり、美しさに魅せられる場、ほほえましい場、思わず爆笑させられる場などがあり、とても楽しいひとときを過ごしました。

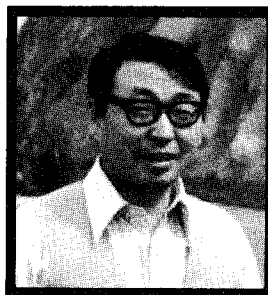
最後には、「びっくりしたで賞」「かっこよかったで賞」などそれぞれの出し物に合った賞が審査員の手によって渡されました。

また、舞台での発表と同時に、会場には扶助協会の姉妹たちの作品を展示いたしました。一つ一つが心のこもった作品であり、すばらしいものばかりで、会場は「創作まつり」にふさわしい雰囲気

いっぱいになりました。

この発表会を通して、神様が私たち一人一人にこんなにすばらしい才能を与えてくださっていること、また現世にあってそれを見だし、分かち合うことが、いかに楽しくすばらしいものであるかを改めて知ることができました。

私たちは今後とも頑張りますます才能を磨き、また増やし、家族や隣人と共に楽しみ、喜びを分かち合いたいと思っています。扶助協会を通して、すばらしい神の娘に成長できますことを証いたします。(レポーター：岡山ステーキ部扶助協会第一副会長・青山静)



おお かみ よし みち

大上善通兄弟(副地方部長)

の逝去に際して

—「告別式はあたかも伝道集会のようでした」—

盛岡地方部八戸支部長 小泉 隆司

「お父さんが倒れたんです。早く来ててください。」

おお かみ
大上姉妹からの電話がきたとき、勤めから帰ったばかりでした。大上家に向かい、車を運転しながら、大したことはないはずだと自分に言い聞かせていました。しかし、着いてみると本人は救急車で運

ばれており、次女の智子姉妹がひとり残っていました。そして、その状況はまさに脳卒中そのものだったのです。

翌日の7月16日早朝、大上善通兄弟は昏睡状態から一度も快復することなく逝ってしまいました。51歳の生涯でした。

大上兄弟に最初に会ったのは、私が仙

各地のたより



●大上善通兄弟の告別式でご子息の和男兄弟（19歳）が遺族を代表してあいさつを述べた

高きに栄えて 住めるわが父
いつ、かえり行きて み顔を見るや
わが霊かつては みそばに住みて
幼きそのとき 育てられしか

エライザ・R・スノー



小泉隆司支部長

台から^{はちのへ}八戸に帰って間もなく、宣教師と共に自宅を訪れ、家庭集会を開いたときでした。もう、いつでもバプテスマを受けられる家族でした。しかし、まだバプテスマを受ける決心がつきかねていたようです。問題は、親しくしている周りの人々と異なる道を歩まなければならない不安だと思われれます。仏壇、神棚、葬式、年中行事などについて話し合ったことを覚えています。当時大上兄弟は42歳、私は伝道から帰還したばかりの24歳でした。

集会の人数が30名を越えることもない小さな教会に、自分の人生を託すというのは、人生の盛りを迎えた人にはかなり勇気のいることに違いありません。その当時のことを、大上兄弟は次のように記しています。

「1975年11月29日、妻と長男がバプテスマを受けました。極めて霊的で美しいバプテスマ会であったと宣教師は表現していました。私も一緒に受けるようにチャレンジされましたが、頑強に拒み続けました。亡き父のことや、自分の墓地を確保することなどまだ自分で解決しなければならない問題が残されていたからです。しかし妻子のバプテスマを目の当たりにして、彼らが遠く手の中から離れて行ってしまふように感じました。心の中にぽっかりと穴があいたようになり、家族がばらばらになってしまう寂しさを感じました。ここに至って改めて、自分の

家族をこのうえなく愛していることを知ったのです。」

1976年1月23日、大上兄弟はバプテスマを受けました。大酒飲みで怒りっぽい人が、主の神権者にふさわしく大きく変わっていくのです。

神権会の教師に召され、支部書記となり、副支部長となります。自分よりも17歳も年下の支部長の下で働く彼は、本当に謙遜な人になっていました。

1978年8月、大上家族は全員そろってハワイ神殿訪問に加わり、家族の結び固めを受けました。その頃からの大上兄弟には末日聖徒の誇りと自信が満ちあふれているようでした。間もなく彼は八戸支部の3人目の支部長となったのです。

支部長になってからは、彼にとって「訓練の時」でした。親族の債務のため、自宅が建っている土地を売却しなければならなくなり、お母さんが亡くなられ、職も変えなければならなくなりました。この時期の辛酸は支部長の激務に追い打ちをかけるようなことばかりでした。しかし、彼はそれを^{ひがね}鋼を鍛える^{つち}槌と変え、信仰を揺るがすことはありませんでした。会員たちの前では、いつも柔和で誠実でした。苦しいことばかりではありません。5年近くにわたる支部長の任の最後に、主は祝福を賜わり、八戸支部に新築の教会堂がもたらされました。「まず神の国と神の義とを求め」る彼の証が建てられたのです。私は彼と共に神権指導者として

働き、大上家のホームティーチャーとして、彼と彼の家族の愛と信仰を見て参りました。確かに彼は真の末日聖徒であり、主の神権者であったのです。

大上兄弟の証の中にこうあります。

「皆さんのお仲間入りをするのはこんなに遅くなりましたが、年長者なので、皆さんよりもお先に、早く天の王国に行けると思っています。」「天の王国行きの特急列車に乗れるように備えていきたいと思っています。」

彼はこの言葉どおりに、改宗してからの10年近い年月の中で昇栄に欠かせないすべてを成し終えておりました。まさに彼は「天の王国行きの特急列車」に乗って逝ってしまいました。東京神殿の中で、「小泉兄弟、覚えましたよ」とエンダウメントについて語っていた大上兄弟の自信にあふれた顔がまざまざと思い出されてくるのです。

彼と私は、「私たちが経験していないのは、葬式と墓の奉獻だね」とよく話し合っていました。未知の儀式に対する不安です。今回の葬儀が盛岡地方部で最初の葬儀になったのでした。大上兄弟の死に臨んで、支部長の私にその重荷がどっこのしかかってきました。彼を失ったとき、年長者の彼の様々な知恵と経験に頼っていた自分に気づいたのです。ふたりで一緒に経験するはずでした。ああでもない、こうでもないかと相談しながらするはずだったのです。まったくの暗闇の手探りで

各地のたより

した。遺体を前にしたときから、もう始まっているのです。涙を流している暇などないのです。遺体の処置、搬送、埋葬衣、棺、祭壇、死亡広告、通夜、火葬、告別式、すべてにわたって初めてなのです。もちろん末日聖徒用の葬儀の手引きなどある訳がありません。伝道部長、地方部長、管理本部、友人などから電話で情報を仕入れ準備するのですが、不安は募る一方でした。もう、祈るしかありません。

いざその場になると、まるで前に経験があるかのように事が運ぶのです。兄弟、姉妹たちが一致して働いているのです。主に祝福され導かれているのです。告別式には250名ほどの方々が参列してください、教会のホールに入りきらず、廊下や階段で聞いていただく有様でした。8割近くの方々が教会員ではありませんでした。私は司会をしていて次第にわかってきました。「これは伝道集会なのだ。取り乱したりしてはいけない」と。私たちが今まで行ってきた活動はすべてこのためではなかったのか、と思われるほど、式の運営、音楽、聖歌隊、会場の整理、そのほか様々なことが驚くほどスムーズに進行しました。

参列者の多くは目に涙を浮かべて会場を離れて行きました。葬儀のプロである葬儀屋の社長さんまでが、ハンカチで涙をぬぐっていました。主のみたまがそこにあったのです。参列された多くの人々にとって、心に触れる葬儀だったようです。告別式で話されるお話、祈り、讃美歌のすべては、教会員に限らず心を開くならだれにとっても理解はたやすいのです。理解できないことなどひとつもありません。

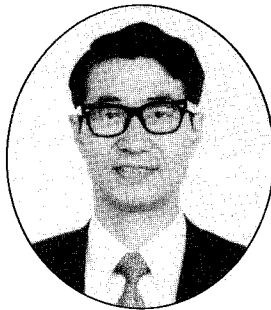
葬儀をすべて終えた今、私は以前にも増して確信したことがあります。それは、大上兄弟も私も、この教会を選んだことに誤りはなかったと。

会員たちの愛と奉仕で葬儀は終わりました。初めての葬儀を経験した八戸支部には、落ち着きを取り戻した今、前とは異なる雰囲気があります。「支部の本当の父」を失った悲しみは大きいのですが、それよりむしろ兄弟、姉妹たちの霊の眼

が開けたのです。今までより一層霊の存在を身近に感じ、系図や伝道に意欲を持つようになりました。大上姉妹は兄弟の証をモルモン経に添えて親族、友人の方々に「故人の思い出」として贈って回りました。

大上兄弟は、私たちにたくさんのお贈り物を残して、主の新しい用向きに召されました。残された家族の心には、「わたし

を信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない」(ヨハネ11:25-26)との主の言葉が生きています。しばしの別れの後、再び会えるという確信は、私たちの心の中に「悲しみ」よりも「希望」と「愛」を、永く強く保たせてくれるのです。(こいずみ・リゅうじ 1951年生まれ)



半年間に2,000枚の 家族の記録シート

— 拡大神権系図クラスの成果 —

レポーター：松下 泰洋

(東京南ステークス大岡山ワード部)

昨年3月、全国的なユニット再編成により旧東京第4ワード部から生まれた大岡山ワード部は、当初65名ほどの活発会員でスタートした。その後石坂晃一監督を中心に神権定員会、扶助協会をはじめとして、全会員が一丸となり、寄せ集められた会員間の結束と和をもたらすために、あらゆる努力が払われた。そして12月には、会員間の絆も次第に強まり、100名近くの出席を見るに至ったのである。

そこでいよいよ福音の基本的なプログラム、活動の充実を計るべく、神権役員会で度重なる討議の末、まず神殿系図活動に力を入れることに決定した。1985年の第1四半期に拡大神権系図クラスを設けて、福音の教義クラスの全員が系図クラスに出席し、ワークショップを行なうというものである。3月末までの目標は、家族の記録シート1,000枚提出と決まった。

ある会員たちはこれまで年間数10枚という実績から無理な数字ではないかと信じがたい思いであった。クラスの人気は40名を越え、10家族の神権者をグループリーダーとして独身そのほかの兄弟、姉妹を各グループに分けて作業は行なわれ

た。

大祭司グループリーダーを初め、ベテランの会員たちが系図探求の第一歩から手ほどきをしたり、またシート作成を手伝うなど毎週楽しくも忙しい40分間が過ぎていった。この計画が発表されて間もなく、教会本部から1985年度上半期の目標、テーマが発表された。それはまさしく大岡山ワード部の決定した神殿系図プログラムと一致していた。

初めは危ぶまれていた1,000枚の目標は、石坂家族を筆頭に、数家族の精力的な作成提出に勢いを得て、2月15日までの45日間で達成されてしまった。この頃から、初めて系図を調べ始めた兄弟姉妹の記録が次々と出始め、6月末まで延長された拡大クラスの家族記録シートの合計は2,000枚を越えるに至ったのである。

各会員は、大型の書類箱を用意してワード部に記録を保管し、毎週その中から名前を引き出し、また新たに引き寄せた資料を蓄えている。日曜学校のわずか40分のクラスで行なえる作業量は限られている。しかしお互いの助け合いと励ましの中で育まれるスピリットは自宅へ帰ってからも持ち続けられ、とどまることのない探求作業へと進展していくのである。

各地のたより



●大岡山ワード部拡大神権系図クラスで系図の作成に取り組む兄弟姉妹

大岡山ワード部の今年度のテーマは、「相互扶助」であり、この分野でもすでにその目的は十分達成されている感がある。

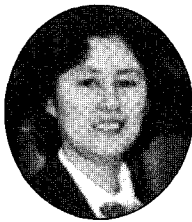
この試みは初心者にとっても、またベテランにとっても新たな喜びとチャレンジをもたらした。これまでともすると少数の熱心な探求者による人名に依存がちであったが、このやり方によって、提出者の底辺を大きく広げるといって、将来の系図探求に計り知れない可能性をもたらすことになった。

変則的ではあったが、拡大系図クラスは6月30日(日)、大祭司グループリーダーによる2,000枚達成報告をもって終了した。7月より本来の神権系図クラスとして引き続き10数名によって活動が続けられている。ひと度エライジャのスピリットに取りつかれた兄弟姉妹は、探求の手をより広げていくことであろう。

今なお、毎週クラスが終わると数10枚、あるときは100枚にも及ぶ分厚い家族の記録シートが大祭司グループリーダーに届けられ、翌月曜日には系図サービスセンターへの定期便となっていることは、多忙なサービスセンターにとってもうれしい悲鳴となっていることであろう。

ここで大岡山ワード部の会員たちの何人かに登場願って、クラスの成果、個人の喜びと変化の証を伺ってみることにする。

最初は新年早々から200枚の家族の記録を提出して終始リーディングヒッターの座を守り続けた石坂姉妹の言葉である。



仲間と協力 し合うこと によって…

石坂 春美

「系図のクラスに出席して驚いたことは、皆資料をたくさん持っておられることでした。ひとりで書いていてわからないことが出てくると、どうしてもそこでやめてしまいがちです。系図について詳しい人がちょっと手を貸すだけで死者の救いにつながるのです。自分でわかるようになる楽しくなり、またもっと多くやろうという気になります。

そしてひとりで10枚、50枚、100枚のファミリーシートができるのです。系図のクラスに出席できないプライマリーやその他の責任を持っていらっしゃる姉妹たちも、個人的に熱心に教えてくださいと言って来られます。ひとりよりも仲間と共に行くと、ますますやる気がわいてくるのです。」

次は初めての本格的な系図作業に取り組んだ砂川多恵姉妹と、新婚早々両家の戸籍謄本を持ち寄って文字どおり二人三脚を始めた佐藤ご夫妻の証である。



「先祖が身近 に感じられました」

砂川 多恵

「私は系図を探求することによって多くのことを学びました。私たちが自分の先祖について調べるのは、本当に必要なことです。しかしそれ以上に、私たち自身にとって大切であるということがわかりました。この作業を通して多くの人々の愛を感じることができました。今まで名前すら知らなかった先祖が大変身近に感じられ、家族や親戚に対して深い愛を覚えるようになりました。そして何よりも私自身の信仰が強められ、系図を探求するときに多くの人々のすばらしい模範を見ることができました。

多くの先輩たちが、みずから先頭に立ってこの業を実践していらっしゃるの、私もその行ないを見て自然に後についていったような気がします。今まで何事にも消極的だった私ですが、気がついたら多くの活動にみずから喜んで参加していました。」

お寺の片隅で眠って いた先祖の記録



佐藤 正俊
香

「私たちが先祖の系図を調べに松山市興居島に行ったときのことで。お寺に行けば先祖の系図があると父から聞いて、そのお寺に行ってみました。私たちが訪

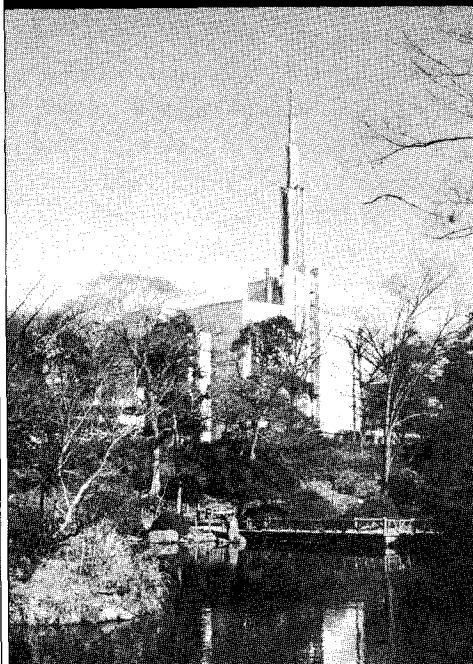
各地のたより

れたときはちょうどお盆でご住職はお忙しく、すぐには取り合っていただけませんでした。やっとお話をさせていただけると思いきや、この寺には系図などないと怒られてしまったのです。

ところが私たちが困り果てているのを見て、メモ程度のものならある、と何やら私たちにを見せてくださいました。そのメモの中には私たちが捜していた先祖の記録が書かれていたのです。このメモは28年前にご住職が理由もなく書いたもので、こうした記録はほかにはなく、私たちの先祖のこののみが記されてあったのです。それまでお寺の片隅で眠っていた先祖の記録がやっと日の目を見たのです。私たちは大変喜びました。ご住職も、なぜこんなメモを取ったのかよくわからなかったそうで、今までそのメモを必要とする人もなかったのです。自分の書いたメモが役に立って良かったと、いつの間にかやら上機嫌になられ、話もはずみました。このおかげで役所ではわからなかった30人ほどの先祖の名前を知ることができたのです。

またこの系図旅行に出る前日、作られたばかりの2冊の本になった母方の系図を手にすることができました。その中には6代先の先祖100人ほどが載っていま

東京神殿



した。その記録は私以外にも系図を調べている親戚の人から送られてきたもので、まだできあがったばかりの本でした。

系図の作業を通し、私たちは新たに行動を起こすとき、確かに主が助けてくださることを証しいたします。」

さて次はすでに系図提出と神殿参入をしているが、その後しばらく提出をお休みしていた家族の方々の証である。



系図と神殿の儀式

齋藤 和子

「1974年8月、3月に結婚したばかりの私たちは恵まれてハワイ神殿訪問ツアーに参加することができました。神殿訪問を控え、一生懸命系図に取り組んだものです。

私は、幼稚園に入るはずの1954年、5歳のときに母を亡くしました。1968年4月に19歳でこの教会に改宗し、死者のための身代わりの儀式ができることを知りました。それ以来念願であった母の身代わりの儀式も受けることができ、その折にはうれしさと感謝の念で涙が後から後から止めどもなく流れてきたのを昨日のことのように覚えています。そしてそのとき、これからも一生懸命系図を調べてどんな犠牲を払っても毎年神殿に参入したいと強く思いました。

しかし、出産、育児、日常生活、目の前の忙しさなどに追われてだんだんその思いも薄れ、長い間系図から遠ざかっていました。今回大岡山ワード部では何カ月間か系図クラスが設けられましたが、私はプライマリーの責任を受けているため、残念ながら系図のクラスに出席することができずにいました。しかし、石坂姉妹が個人的に私の系図作成のために多くの時間を費やし、助けてくださいました。彼女に心から感謝しています。

随分と程遠い存在だった私の先祖が、再び身近に感じられるようになってきま

した。私たちの心を、救いを待っている先祖たちに向け、今、一生懸命系図と取り組まなければという思いであります。」
(注：斎藤姉妹はクラスに参加できなかったが7、8月で百数十枚の記録を提出した)



夫婦で協力して記録を作成

吉岡 勇作

「今年のワード部の上半期の方針のひとつは、全員が系図作りをするということで、私も再び吉岡家の記録を作り始めました。10年ほど前に90枚くらい提出したときの資料があり、今回は役所に資料請求をまったくせず、以前の資料で182枚の記録を作成することができました。それでもまだ、あと100枚ほどは作れそうです。

妻の方は、渡会家に関して150枚ほど提出してきました。私の182枚もほとんど妻が毎日の家事の合間を見て作成してくれたものです。独身時代とは違って毎日コツコツやろうと話し合い、夫婦で協力しました。妻の書きあげた記録を私がコピーし、完成した資料を、完成資料、提出資料として事務整理しています。

独身時代の方が時間もお金も余裕があるので系図作りがしやすいと思っていましたが、実際には結婚してからの方が長い目で見ても着実に進められるようです。それは夫婦が互いにいろいろな点で助け合っていくことにより、主の業を実行する意味を知ることができるからです。」

以上の証からも伺えるように、このプログラムは単に死者の救いに貢献するのみでなく、会員の活発化、活性化に大きな力のあること、すなわち生ける者の救いに役立ち、「死者なくばわれら^{まこと}完うせらるるを得ず」(教義と聖約128:18)というジョセフ・スミスの言葉の意味を身をもって教えてくれた。

このペースでいくと、年内に3,000枚は

各地のたより

おろか4,000枚の提出も可能であると、会員たちの思いも大きく変わってきている。これらのシートから出る人名数は10,000を越えることになるであろう。ちなみに東京神殿の昨年度の総エンダウメント数は約32,000名であることから、3ないし4つのユニット、すなわち1ステーキ部だけでも東京神殿の1年分の人名を支えることが不可能でないことがわかる。

今年度は全国各地のユニットで記録提出数が著しく増えていることから、現在提出の死者の儀式は1年半から2年後に待たなければならないのが現状である。そして東京神殿が行なえる年間エンダウメント数は10万台から20万台とも言われている。しかしこの数字は、もしひと度この糸図提出の意気が燃え始めると、東京地区だけでまかなえる数字である。換言すれば、東京以外の地域の死者の救いのために各地に神殿が必要となり、そ

のときこそ、マシュー・カウリー長老の予言が成就されるときではないかと想像できるのである。しかしこのビジョン実現の鍵は、記録探求に続く神殿参入者の飛躍的な増加である。活発会員の絶対数が大きくなければ死者の身代わりをする人が得られない。そこで身代わりをする会員の不足を補う唯一の方法は、改宗者を迎え入れるということになるであろう。

このような観点から、今後の伝道に関して新しい発想の転換を迫られる思いを抱くのは必然的ではなからうか。私たち大岡山ワード部はこの新しい経験から得られた信仰と自信を土台として、新しい会員伝道へと大きく歩幅を広げていく所存である。死者の救いに貢献する業はとりもなおさず、生者の救いの業であることを心より証し、この喜びの報告を終わ(まつした・やすひろ 大岡山ワード部大祭司グループリーダー)

も持てずにいました。

いつも母とふたりだった私は母が死んでしまったら私は一体どうなるのかと考えたり、母と一緒に死んでしまった方がいいとさえ思っていました。そして何か心の支えが欲しかったのです。私は思い切って神様に頼ることを考えました。このような心がわかっていくかのように長老たちは熱心にレッスンをしてくださり、10月27日をバプテスマの日に決めていたようでした。母に相談しましたら、反対ということでもないのですが、家族がこの年まで何でも一緒だったので、私ひとりだけ宗教が変わることを心配しているようでした。私はどうしても母に喜んでもらってバプテスマを受けたいと思っていました。

私たち家族は郷里の家が破産したことから上京して来ましたが、父が郷里に残って送金してくれるようになっていました。私が子供の頃、母は祖父母、父、叔父、叔母のために雇人^{ぼんどう}たちと朝から晩まで働き、そのうえ父の放蕩にも絶えながら私たちを育ててくれました。本当に苦難の連続だったと思います。

このような環境から離れ東京へ出たのですが、今度は生活に苦しみました。父からは送金が途絶え、少しばかりの持ち物^{もの}を売り、質屋通いをしたりしたのですが、食べることさえできなくなり、つらい毎日でした。しかし母はいつもにこにこして心配させないようにしていました。

母も何か仕事をするつもりだったらしいのですが、慣れない土地で何もできなかったのでしょうか。ある日、母はきびしい顔をして、死んでしまったらどんなに楽になるだろう、みんなで死んでしまおうか、と言ったことがありました。母も自分の両親を亡くしていましたので助けてくれる人もいなかったのです。

私たちも母と一緒に死んでもいいと思いました。でも、若いときはどんなに苦しい事があっても希望を持っているものなのですね。それは神様が希望を与えてくださったのです。その頃は信仰を持っているとも思いませんでしたが、どんなに不幸があっても良い行ないをしていたら神様はきっと助けてくださると思っ



私の半生記

—生きる希望と支えを
与えてくれた福音—

東京南ステーキ部千束ワード部
淡谷 とし子

●お姉さんののり子さん(歌手)と一緒に。右側がとし子姉妹

今年の秋の10月でバプテスマを受けて13年になります。今本当の幸せを私に与えてくださいます主に心から感謝しています。

もう何十年も前、女学校のとき友達が洗礼を受けているのを見て私も受けたいと思っていましたが、チャンスがなく受けられませんでした。その後は教会へ行くこともなく忘れて過ごしていましたのに、年をとってから念願のバプテスマを受けられたときは、とても考えられないような不思議な気持ちがありました。宣教師が思いがけなく訪ねてくださって話を聞き、1カ月ほどしてバプテスマを受け

たいと思ったのも神様のおぼしめしだったのだと思います。

初めて訪ねてくださった宣教師はクック長老とホール長老でした。上手な日本語でとても熱心に教えてくださいました。私はあまりにも年を取り過ぎていたのでレッスンをする度に続けられるかどうか悩みました。

その頃はただ何となく生きているような、別に苦労もなかったのですが希望もなく、自分はこの先どうなるのか不安な日々でした。母と姉と3人で生活していたのですが、姉は仕事でいつも家を留守にし、そのためにお互いに話し合う時間

各地のたより

ていました。いつか私たちはきっと幸福になり母を安心させなければ、と姉と話し合ったりしました。

私は予定どおり10月27日にバプテスマを受けました。このときの感激は言葉に言い尽くせない思いでした。帰宅して母にいろいろと話をしましたら、良かつ

たねと言ってくれましたので本当に安心しました。私は母に対してもこれからは教会員として良い姉妹にならなければならないと心に誓いました。

母は、昭和54年1月20日にわずか1週間の入院で穏やかに天に召されました。私は死んでもまた母に会えると思いが

ら、そのときは悲しくて泣いてばかりいました。今では、母は幸せになり霊界で福音を学んでいることと思います。神殿で結び固めの儀式をしていただいて本当に感謝しています。いつかまた、母と共に生活できることを楽しみにしている毎日です。

これは以前に何かで読んだものです。

「与えられた一日は立派に歩むのではなく、与えられた一日は完全に歩むのではなく、与えられた一日は一生懸命に歩むもの、そこには悔いはない、私の明日は常に神のみ手にあると確信しつつ寝む一日は真に平安ありき。」

このように神様から与えられた一日を、一生懸命に勉強したり働いたりした日は、神様に感謝して安らかに寝むことができます。健康な体を与えられ精一杯努力することはとてもすばらしいものです。いつも一生懸命歩むのはむずかしいですが、自分で決心したことはたとえ少しずつでも続けていきたいと思っています。昇栄するために福音を守り、自分自身の心を高め、愛と誠実さを忘れず生きていきたいと思っています。(あわや・としこ 1909年生まれ、千東ワード部オルガニスト)

私から離れてはいけな

名古屋ステーキ部大垣支部
丸山 千代子



人には自由意志が与えられている
主の道を選ぶか
あるいは
この世の自分だけの道を選ぶか
それは、私が自由に選ぶことができる……

主よ
私はあなたに背を向けました
でもそれをどうすることもできません
なぜなら
それは、私が選んだことだから
それでも 主よ
あなたは私が振り向くのを待っていてくださる
あなたは大きく両手をひろげて待っていてくださる
私が振り向くのを……

長い月日が流れ去って――

主よ
私は振り向きました
そこに見たものは計り知れない大きな愛でした
両手を一杯に広げて
悲しそうに
じっと私を見守っている姿がありました
その姿はわたしの胸を打ち貫きました
ああ
私は何をしようとしていたのか
私は何から遠去かろうとしていたのか……
私は振り向きました……
そのとき
待っていてくださった主は
私を力強く抱きしめて言われました
「私から離れてはいけな……」

(まるやま・ちよこ 1958年生まれ、大垣支部若い女性会長)

家族新聞 「ひげもじゃ」が 家庭を結ぶかけ橋に

☆…今、姫路の街に、大勢の人たちの温かい声援を受け、大奮闘している末日聖徒の家族がいる。神戸ステーキ部姫路ワード部の寺内勝行兄弟(36)一家である。寺内家族は由美子姉妹(33)と5人の子供たちの7人家族であり、友人の勧めもあって、今年2月に家族新聞「ひげもじゃ」を創刊。家族のせわしい朝の光景や子供の作文、家族の雑談など内容豊富につづられている。しかし、4月になって寺内兄弟が重傷のネフローゼ症候群(じん臓症)で入院。その間も由美子姉妹が中心となって看病、子育てのかたわら「ひげもじゃ」は発行され、子供たちのお父さんを励ます声の載るこの新聞は、遠く

各地のたより

離れた病院にいる寺内兄弟と家族とを結ぶかけ橋ともなっている。(2月の創刊当時は、B5判、4ページ、発行部数30部であったのが、8月号の第6号では20ページ、100部となった)



●(上)寺内ご家族。りさちゃん(10)、志穂ちゃん(8)、仁君(6)、愛ちゃん(4)、雄君(2) ●(右)「ひげもじゃ」の題名になった寺内兄弟 ●(右端)「毎日新聞」昭和60年5月3日付で紹介された家族新聞。



家族新聞が書いた。新聞の名前を「ひげもじゃ」とゆ。お父さんがひげをのびしてゆかちや。

寺内さんちは七人家族。お父さんとお母さんと五人の子もたがいます。いまどき五人もいるお家、少ないで。子もたの様子をかんたんで、新聞にすめひつたらどうやとすめひつた。一月には寺内さんの朝の光景が載っている。ひとりのトイをめぐって五人の子もたが別室へくる。学校へいく用意を、ちやうとした。戦争や。

じん臓がわるい家においで、治して。たたんやけとくとう入院になってしもつた。「五人の子をかかえて……」と奥さんの由美子さんにきかす。「いえ、お金の心配よりも、家にお父さんがいなくなるのの方が心配です」

入院を前に、寺内さんちと保くして、「ごはんを食べたのや。子がおせんのまわりをひつていて、でひをそってしもつた。

父さん
はよ帰ってきりや

意味もなへ笑っているてあった。お父さん、おかしいん。」とときまて親父は答えず笑っている。寺内さんちどごはんを食べよって、親父のあめ笑いがかわった心地がした。子らまみているだけで、なんといえんうれしがたあける。

と、おじいちゃんの子もたを結ぶきすなと。ほくは印刷を引き受け、部屋をのぞくと、大人用のけに手をもたぶら整っている。その時、手残してやりたうて眠ってびるやつた。



岩田 健三郎

た。子もたちも、おじいちゃんに預けられて、つかれている。家族新聞「ひげもじゃ」がいっしょ必要になった。病院のお父さんとお母さん、んからは、何年たっても夫にな上の紙で刷って……という注文を受けている。お父さんは「治療の方法がない」といわれて、遠い病院に移るこたなう

家族新聞がとりもつ愛の輪

神戸ステーク部姫路ワード部
寺内 由美子

夫がネフローゼになって、多くの方から助けをいただきました。その時々様子を毎月発行する家族新聞に載せ、友人に読んでいただいています。

家族新聞を作ることになったのは、姫路市内の版画家岩田健三郎さんと1年前に出会ったことに始まります。岩田さんはもう10年以上も前からミニコミ誌を発行され、家で子供文庫を開いたり、子供たちに版画を教えられたり、また、版画で四季折々の身の回りの出来事をやさしい文章とともにハガキに印刷して、外出も思うに任せない人々や心さみしく思っている人々に毎週送られています。また、

思いを詩に託し曲をつけて手作りのコンサートで友情の輪を広げ、私たち家族にも人とのつながりの大切さを教えてくださいました。

教会の中だけではなく、いろいろな思いを持つ人々と知り合いになることは、私たち家族にとってすばらしい機会です。コンサートに夫や子供と共に参加して、自分たちの作った歌を心の底からわき出る思いで伝えることの喜びを知りました。手話で「子供の歌」にある『小さな川』を歌ったときの人々の輝いた目を忘れることができず。人々に愛を伝える方法がたくさんあることを知ることができ、感謝しています。

夫が岩田さんから「寺内さんここで、家族新聞作ってみたら」と勧められたとき、人々とのつながりを何かの形で表わしたいと思っていたときでしたので、喜んで始めました。題名を考えるために家族全員で編集会議を開き、長女りさが提

案した、お父さんのひげからとった「ひげもじゃ」に決まりました。

子供たちとの会話や聖句、友人からの便り、イラスト、作文など、家の中のあらゆることを記事にします。家の中の出来事を隠さずに書くことは勇気のいることですが、それら全部を出すことによって思わぬ反響がありました。友人が家族や知人に勧めてください、まったく知らない方から「ずっと前からの知人のようでは是非一度お会いしたい」と言われたり、コンサートに出ているときに、「私にも一部だけいただけないでしょうか」と言われたりもしました。また、教会に興味を示してくださる方もいらっしや、「聖書はまったく読んだことがないのに読んでみたくなりました」と言ってくださいました。こんな新聞でも心待ちにして読んでくださる人々がいると思うと、作っているときの疲れなど吹き飛ばしてしまいます。しかし一番喜んでるのは、

各地のたより

もしかしたら私たちの両親かも知れません。最初はばかなことばかり書いていたようですが、今では子供たちの成長の様子を知ることができると楽しみにしています。

夫は日頃から、「友人を得たいなら、自分から心を開いて思いを伝えるように。教会の中だけで活発であっても自己満足に終わりがちだ。社会に対して今何ができるのか、いつも考えなければいけない」と言います。彼自身、手話を学んで聾啞者の方々に福音を伝えたりしています。また、多くのサークル活動をしている友人たちを得て、その献身的な働きに心打たれ、元気になったときには自宅を手話のクラスを開き、興味のある人々に教えたいと望んでいます。

福音は、私たち一人一人にその人にしかできない働きがあることを教えてくれます。すべての人々が神様の大切な子供であると教えてくれます。人とのつながりが形だけでなく、心の底から、私たちが愛を分かち合ってゆけるものであるのなら、教会員はもちろんのこと、教会外の人々とも、より深い友情を育てていけると思います。

愛が世に満ちあふれ、福音が世の隅々にまで拡がりますようお祈りします。(てらうち・ゆみこ 1951年生まれ、姫路ワード部扶助協会第二副会長)

— 家族新聞「ひげもじゃ」から —

毎日が戦争

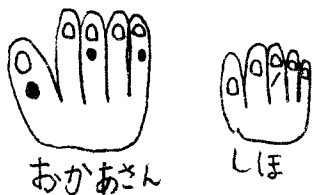
夕ごはんはまだ？・もうちょっと・はい、座りなさい・ちょっと待ってもう少し宿題残っているから・志穂いつまで本読んでるん早くすわりなさい・雄君お祈りの前につまみ食したらだめ・これこれひとりでお祈りしてしまうの？・お兄ちゃんが愛ちゃんのとこすわる～・仁代わってあげなさい・りさ、どれも同じだけ入っているんよ。お皿変えるのやめなさい・いただきます・雄君これお母さんのよ・ちがう雄君の・りさ雄君に取られない前にこれ食べとこ・志穂ひじがついてるよ・仁、背をもっとピンと伸ばしなさい

い・雄君スプーンが反対よ・そうそれでいいの・あ、雄またこぼして・志穂ふきんちょうだい・愛、お野菜残さないで・愛ちゃん全部保育所のおかず食べたもんね・えらい・りसानんかキュウリがきら

いやったけど好きになったんよ・保育所に行くともみんな偉くなるね・かくて私のオチャワンは話してる間にカラッポ。お腹のどこに入ったかもわからない・お父さんひとり病院食おいしくないやろね。

おかあさんの手

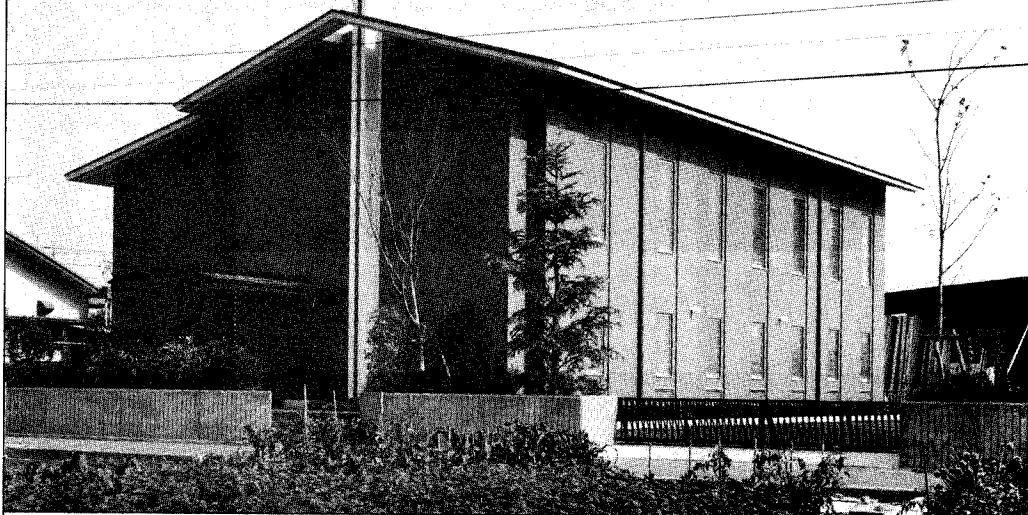
2ねん4くみ 寺内 しほ



おかあさんは、とてもいそがしそうです。そうじをして、せんたくをして、ごはんのしたくをするからです。おかあさんの手は、とてもがさがさです。わたしがおかあさんに、「おねえちゃんがカッターで、しほの手きった。」という、おかあさんの手を見せて、「おかあさんのほうが、いたいよ。」といいました。わたしはそれを見て心の中で「いたっ」といいました。

敷地面積：829.34㎡
建築面積：239.62㎡
延床面積：458.86㎡

献堂された岡山ステーキ部 倉敷ワード部教会堂



「この建物が、大いなる^{とりで}岩となりて選民を見だし得るシンボルの建物となりますように……祝福されますように……。」

渡辺明ステーキ部長の祈りによって、1985年6月2日、倉敷の教会堂が主に捧げられました。

思い返せば13年前の1972年6月、初め

て倉敷の地で集会が開かれ、伝道が本格的に始められました。奇しくも同じ6月に、教会堂が完成される運びとなりましたことは、不思議な思いがいたします。

倉敷の地で教会堂が完成するまでには、多くの宣教師の献身的な犠牲と会員の大きな努力があって、今のようすばらしい時を迎えたのであります。この地域に

各地のたより



倉敷ワード部所在地：岡山県倉敷市沖84-4 TEL. 0864-22-8471

おいて、真の福音を知らず、その訪れを待っている主の選民を見いだすために教会堂が与えられましたことを心から主に感謝申し上げます。

倉敷ワード部は今この時を大きな節目

として、会員一同が伝道に立ちあがる時でもあります。教会堂にはすばらしいバプテスマフロントがあります。常にこのフロントが使われますよう、心から願っています。

この教会が地上における主のみこころに添った真の教会であることを心から証いたします。(倉敷ワード部監督・振角巖)

新聞からの話題

☆…盛岡地方部盛岡支部の高屋敷多喜子姉妹は、地元のある新聞社の読者の欄にたびたび投稿、採用され、また市民の声としてインタビューを受けたりするうちに、その一主婦としての柔らかいながらも鋭い観察眼が買われ、「盛岡タイムス」というミニコミ誌作りに参加することとなった。

高屋敷姉妹いわく「ズブの素人」として、5歳、3歳、1歳の子供たち共々あちこちを飛び回り大活躍。その中で、盛岡からBYU(プリガム・ヤング大学)に留学する川村展子姉妹(盛岡支部会員)を紹介した際、「任せる」として与えられた1ページの紙面で川村姉妹の留学先やその地ユタ州などをあわせて紹介した。その記事はそのまま教会の広告ページとなっている。

わが家には、家族四人で続いている行事がある。その名を「家庭の夕べ」と呼んでいる。
主に月曜の夜が、それに当てられる。この日は主人も早めに帰ってくるし、できるだけ用事を作らないようにする。夕食、片付けを済ませ、子供たちも早くふろに入れる。三歳六カ月と二歳八カ月の幼児でも、この日を知っている。
四人がテーブルを囲んで席に着くと、わが家のおしん(嬢君)が二子歌を教えるのは専ら私の役目。何度か繰り返すうちに、長男は教曲歌えるようになった。二男の方は、言葉じりを合わせるのがやっとうごころだが、片コトでも一生懸命ついでるところがいじらしい。

歌の次は、長男が「家庭の夕べを聞き

ます。よく分かるようにお願いします」

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

家庭の夕べ

子供たちの成長につれて、恐ろしく内容も変わっていくことだろう。今のところは、子供たちに家族団らんの味を少しでも感じてもらえれば、というのが私の願い。お宅でも「家庭の夕べ」を開いてみませんか。お好みの方法で……

……

……

……

……

……

……

●「盛岡タイムス」昭和60年5月8日付

元気で行ってらっしゃい

BYU留学の川村さん

四日後に成田から米
 国BYU（総合大学）
 で留学する川村さんへ
 へ一年間の留学へ旅立
 つ女性がいます。五十四
 年が三年前にオーストラ
 リアに留学しました。
 生）を卒業した川村展
 子さんである。

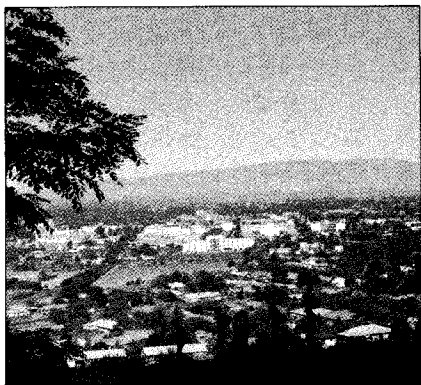
このことがきっかけ
 で留学する川村さんへ
 彼女の母さんは「姉
 が三年前にオーストラ
 リアに留学しました。
 若いうちならと主人は
 言いますので」と理解
 を示した。北高で教え
 た先生は「在学留學生
 として本校から七月に
 出発する生徒もあり、
 展子ちゃんの英語力を
 ランティア活動の一つ
 として行っていた。米、
 加、英、仏、クエート、
 イランなどの英語圏の
 人々に限らず、英語を
 話す人々に日本の文化
 や習慣を紹介しながら
 国際交流を深めた。

学会で行かれ、「盆地
 という点で非常に盛岡
 に似ている。盛岡の人
 の留学先として誠にび
 ったりですよ」と話し
 てくれた。さらに、「同
 地の市民は成人病でな
 くなる人が少なく、日
 頃、刺激物を一切口に
 しないモルモン教の戒
 律が効を奏しているこ
 とが学術的見地（予防
 医学という）から注目
 されている」と関心の
 ほどをつけ加えた。

尚、川村展子さんの
 ことは本紙六日の月曜
 インタビューで紹介し
 ています。



●（上）高屋敷ご家族。七十人第一定員会会員の
 ジャック・H・ゴーズリンド・ジュニア長老と共に。
 ●（前頁右下記事）「河北新聞」で採用された『家
 庭の夕べ』の投稿記事は、高屋敷姉妹による数多
 くの投書の中のひとつである。

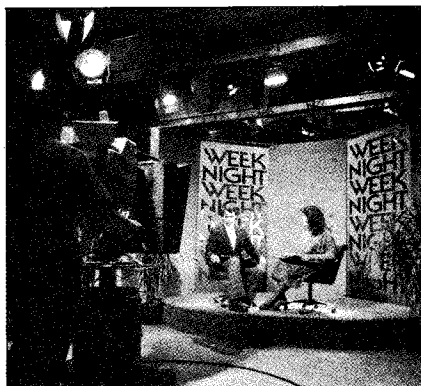


プロボ市郊外のBYUキャンパス

まで、布教伝道に従事
 して、尊い国際経験を
 踏んでキャンパスに戻
 り学んでいる。

学部のうちで目立っ
 ているのは情報経営学
 部で、KBYUという
 テレビ・ラジオスタジ
 オの施設をもち、ユタ
 州全土へ報道するまで
 の実務教育レベル。

スポーツクラブは大
 変に盛んであり、ミシ
 シッピー川西部随一の
 体育館（二万三千人収
 容の座席つき）をそな
 え、全米チャンピオン
 チームのフットボール
 クラブをもつ。



KBYU テレビスタジオ

◇BYU

BYUはブリガム・
 ヤングユニバーシテイ
 の略称で、アメリカユ
 タ州プロボ市の郊外に
 二百六十一ヘクタール
 の広大な敷地を有する
 医学部を欠くだけ
 の総合大学で、学生数
 約二万六千人の全米一
 の私立大学。創設者は
 モルモン教会の二代大
 管長ブリガム・ヤング
 予言者。ヤングは中西
 部アメリカの開拓者と
 しても有名である。百
 余年の歴史をもつ。

そして、永遠のための
 教育”をモットーとし
 生涯において永遠に学
 び向上する精神を身に
 つける。

学生は世界七十五カ
 国から集まり、世界は
 キャンパス”をスロー
 ガンとし、ウイーン、
 パリ、マドリッド、ロ
 ンドン、エルサレムに
 六カ月間の学習を受け
 る施設も整っている。

通信教育生数は十万
 人を数える。ことにモ
 ルモン教会立の大学の
 特徴として毎年約七千
 人に及ぶ若者が、北は
 北欧フィンランドから
 南は東南アジアのタイ

名所としてはグレー
 トソルトレークの大塩
 湖、西南のシオン国立
 公園や大恐龍棲息地帯
 からの化石発見地など
 がある。またコロラド
 州グランドキャニオン
 への北方人口でもある。

組織者で初代大管長
 はジョセフ・スミス。
 二代大管長がブリガム
 ヤングで、ユタ州を開
 拓し、BYU（総合大
 学）をプロボ市に創設。
 ニューヨーク州に始まる
 その歴史は迫害と苦難
 に満ちていたが、現在
 では世界に布教伝道の
 勢力をひろげている。

尚、川村展子さんの
 ことは本紙六日の月曜
 インタビューで紹介し
 ています。

尚、川村展子さんの
 ことは本紙六日の月曜
 インタビューで紹介し
 ています。

◇モルモン教
 一般的にモルモン教
 会として知られ、「モ
 ルモン」のニックネー
 ムと呼ばれる。聖徒が
 「イエス・キリストを
 証するモルモン経」を
 信するからである。教
 会の正式名称は末日聖
 徒イエス・キリスト教
 会である。

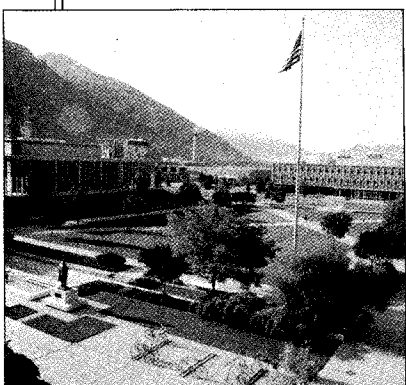
教会 62-5555
 宣教師 46-8887、
 47-0912。

◇ユタ州
 アメリカ合衆国西部
 で、ロッキー山脈中に
 ある。平均高度約二千
 メートル。州都はソル
 トレーク市。一八九六
 年合衆国の一州となる。
 土地はブリガム・ヤ
 ングに率いられたモル
 モン教徒によってひら
 かれた。州の人口の七
 〇%以上がモルモン教
 徒である。

◇モルモン教
 一般的にモルモン教
 会として知られ、「モ
 ルモン」のニックネー
 ムと呼ばれる。聖徒が
 「イエス・キリストを
 証するモルモン経」を
 信するからである。教
 会の正式名称は末日聖
 徒イエス・キリスト教
 会である。

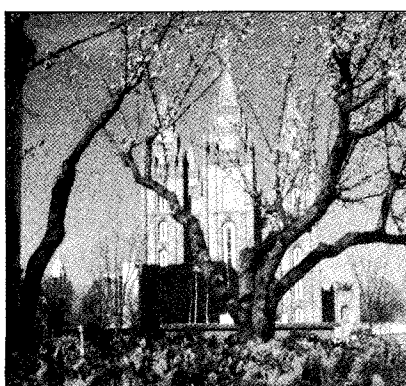
◇モルモン教
 一般的にモルモン教
 会として知られ、「モ
 ルモン」のニックネー
 ムと呼ばれる。聖徒が
 「イエス・キリストを
 証するモルモン経」を
 信するからである。教
 会の正式名称は末日聖
 徒イエス・キリスト教
 会である。

◇モルモン教
 一般的にモルモン教
 会として知られ、「モ
 ルモン」のニックネー
 ムと呼ばれる。聖徒が
 「イエス・キリストを
 証するモルモン経」を
 信するからである。教
 会の正式名称は末日聖
 徒イエス・キリスト教
 会である。



大学本部（すぐ後はロッキー）

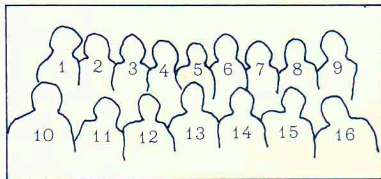
◇ユタ州
 アメリカ合衆国西部
 で、ロッキー山脈中に
 ある。平均高度約二千
 メートル。州都はソル
 トレーク市。一八九六
 年合衆国の一州となる。
 土地はブリガム・ヤ
 ングに率いられたモル
 モン教徒によってひら
 かれた。州の人口の七
 〇%以上がモルモン教
 徒である。



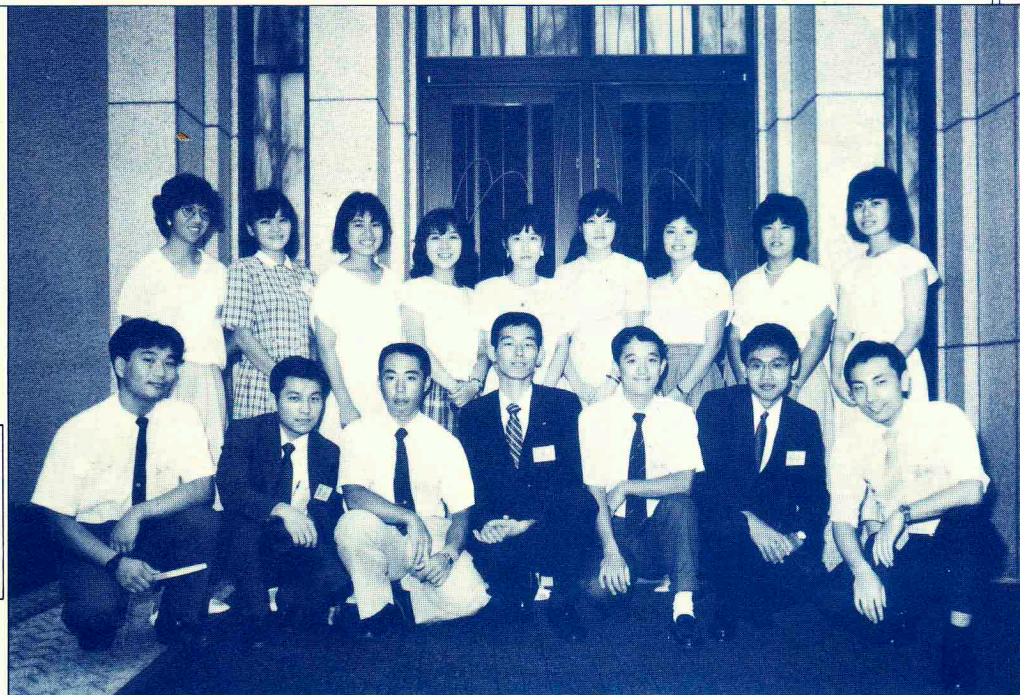
ソルトレーク神殿

各地のたより

8月に召された JMTC 第75期生 16名の名簿



S: ステーキ部, M: 伝道部
W: ワード部, B: 支部



| 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 | 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|----------|------------|--------|-----------|-----------|--------|
| 1. 米倉まり子 | 福岡M/鹿児島B | 名古屋伝道部 | 9. 阿部いずみ | 福岡M/大分B | 札幌伝道部 |
| 2. 山本美智恵 | 神戸S/神戸W | 札幌伝道部 | 10. 森元 正直 | 福岡M/大分B | 名古屋伝道部 |
| 3. 井口富士子 | 東京S/吉祥寺W | 札幌伝道部 | 11. 菅近 宏幸 | 横浜S/川崎W | 仙台伝道部 |
| 4. 阿部 美雪 | 東京S/吉祥寺W | 福岡伝道部 | 12. 石川 進一 | 横浜S/上大岡W | 神戸伝道部 |
| 5. 北上 裕子 | 札幌西S/小樽W | 福岡伝道部 | 13. 三輪田武寿 | 名古屋S/名東北W | 札幌伝道部 |
| 6. 籠田知加子 | 大阪堺S/河内長野B | 福岡伝道部 | 14. 西村 新吾 | 町田S/藤沢W | 札幌伝道部 |
| 7. 中島 邦恵 | 福岡M/延岡B | 東京南伝道部 | 15. 杉本 敏彦 | 札幌西S/手稲W | 福岡伝道部 |
| 8. 横山 弘美 | 福岡M/延岡B | 東京南伝道部 | 16. 岩田 慎一 | 福岡M/大分B | 岡山伝道部 |

編集室から

●心に残った記事の感想文、各地の話題や行事、「日々の恵み」コーナーの証、「職業と信仰シリーズ」、カットなどをお送りください。12月号掲載分の締切は10月8日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。

●あて先: 〒106 東京都港区南麻布 5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03-444-5264



渋谷ブックセンターから

●「聖徒の道」の価格変更のお知らせ
「聖徒の道」の年間予約購読料は従来通り2,200円ですが、1部売りの250円は今後150円となります。大会号(1, 7月号)は従来通り350円です。

☆学習ガイド
(パンフレット7種) 各10円

レッスンプラン「福音の標準教授法」の各課終了毎に求道者に渡すための学習ガイド。レッスンで学んだ原則のまとめ、質問、参照聖句、求道者へのチャレンジなどが記されています。紹介「きてごらんなさい」/学習ガイド1「神の計画とイエス・キリストの神聖な使命」/学習ガイド2「イエス・キリストの福音」/学習ガイド3「回復」/学習ガイド4「永遠の進歩」/学習ガイド5「キリストのような生活」/学習ガイド6「王国の会員になる」

☆モルモン経のソフトカバー (新発売)

従来のハードカバー(厚表紙)のモルモン経に加えて、ソフトカバーのモルモン経が先の9月末に出版されました。ソフトカバーのモルモン経は軽くて開きやすく、携帯にも便利です。ハードカバーのモルモン経とあわせてご利用ください。定価はハードカバーと同じ450円です。



力を合わせて戦う

中央扶助協会会長会との会見



(中) 中央扶助協会会長バーバラ・W・ウインター姉妹 (後列左から) 第一副会長ジョイ・F・エバンズ姉妹, 第二副会長ジョアン・ドクシー姉妹, 書記兼会計ジョアン・スペンサー姉妹

質問: ウインター姉妹が召された1984年8月以来、扶助協会の建物が扶助協会と若い女性、初等協会という3つの補助組織の本部になっていますね。こうした動きは何を象徴しているのでしょうか。

バーバラ・W・ウインター姉妹 (会長): 目的の一致を象徴していると思います。私たちは本当の意味で大きな共通の目標のもとに結びついているのです。

もちろん、福音は常に私たちをひとつにしてくれます。そして各中央補助組織会長会は週に一度、一人一人の子供、若い女性、婦人、家族を強めたいという共通の願いを込めて共に集っています。

質問: ワード部やステーキ部でもこのような力強い一致が見られますか。

ウインター姉妹: 一致と協力の精神が

みなぎっています。補助組織が個人と家族を強めるために協力し合い、しかも独自の責任や相互の違いを認識していることがよくわかります。

ジョアン・B・ドクシー姉妹 (第二副会長): ひとつの例をお聞かせしましょう。現在の召しを受ける前に初等協会ですぐに働いていましたが、初等協会の教師を教会にあまり来ていない子供のいる家庭に訪問教師として割り当てると効果があることに気がつきました。教師が毎月その家庭を訪問するうちに、母親ばかりでなく、家族全体と、そして子供たちとも親しくなって強めることができるのです。

質問: 若い女性と扶助協会が協力すると、少女たちが扶助協会の年齢に達する

までの過渡期を乗り切るのにより助けができると思うのですが。

ジョイ・F・エバンズ姉妹 (第一副会長): ワード部およびステーキ部の指導者は、少女たちを母親の属する組織にやみくもに送り込むのではなく、協力してその過渡期を大切にしてほしいものです。

これは、少女たちが16、7歳になる前によく考えなければならない問題です。少女たちの人生の早い時期に種をまくことです。将来のことについて語るときは、扶助協会についても言及すべきです。

ウインター姉妹: その通りです。幼い息子たちを伝道に備えさせるときによく似ていますね。またローレルの少女たちが母親の集っているホームメイキングの集会に招かれることがよくあります。ヤングアダルトのすばらしい姉妹が若い女性のクラスを訪問して、扶助協会について話すこともあります。

ドクシー姉妹: そしていよいよ彼女たちが扶助協会に入ってくるときには、私たちが魅力的でしかも力強い雰囲気のもとで迎える番です。

機を逃さずに参加させることが大切です。たとえば、扶助協会の指導者はこの若い姉妹たちを、訪問教師として召したらよいと思います。

質問: 訪問教師の件ですが、教会の女性はこれをどのように捕らえていけばよいのでしょうか。

ウインター姉妹: どの姉妹にも訪問教師がいなければなりません。つまり自分が必要とされていて、だれかが愛と関心を持ってくれているという思いが伝わることです。しかし同時に、訪問教師自身にとっても慈愛を育むよい方法であると

いうことも大切な点です。女性たちを訪問教師の業に召すということは、人生で最も大いなる祝福であるキリストの純粹な愛を養う機会を与えることなのです。

エバンズ姉妹：私はアイルランドでお会いしたワード部扶助協会の会長さんのことを思い出します。彼女は車も電話も持っていないのですが、一生懸命に自転車をこいで家庭訪問に出かけるのです。そして自分に与えられた課題を喜々として果たしています。

質問：女性を取り巻く状況は実に多様だと思えます。皆さんは、私たちすべてを結びつけるものを何だと思えますか。

エバンズ姉妹：福音に忠実に生きることだと思います。私は行く先々で、献身的で偉大な女性を目にしてきましたが、召された場で喜んで奉仕し、福音をもっと知りたいと望んでいる女性たちです。

ウィンター姉妹：メイン州北部の小さな村を訪問した折に、貧しい風土で命をつなぐためだけに力を合わせて働いていると言ってもいいような婦人たちに会いました。またもっと人口の多い地域では、都会生活から生じる諸々の要求や「繁雑さ」といった別の問題と取り組んでいる女性の姿を見てきました。しかしいづこも、物理的な状況に左右されることなく、献身と忠実さがひとつの糸で結びついているのです。

質問：初期の扶助協会では、婦人たちが互いに助け合うことが、文字通り生きるための条件だったと思えます。多くの人々にゆとりが出てきた今、私たちの愛の手をどのように広げていけばよいのでしょうか。

ウィンター姉妹：私には現代が真に平安とゆとりの時代とは思えません。経済的な面だけでなく社会的にも情緒的にもストレスが増している現代は、かつてなされた生きるための援助を同じように必要としている時代です。

ドクシー姉妹：先頃私はミシシッピ州を訪れましたが、そこでは姉妹たちはひとつとなるために州全体をまわり、家庭訪問も一日かがりで行っています。彼女たちには、まさに行かないに裏打ちされた真の姉妹愛が必要なのです。

ウィンター姉妹：ソルトレーク・シティーに住む友人は病気で身体の機能が衰

弱しているのですが、家庭訪問するために車いすに乗り、特別な装置をつけた車を運転します。途中で同僚を乗せて訪問先の姉妹の家に着くと、迎える側の姉妹が家から出てきて、その車の中で家庭訪問を受けます。彼女が愛にあふれて輝いているので、隣近所の人々までが車のまわりに集まってくるのです。

エバンズ姉妹：このような犠牲はみたまを豊かにもたらします。もちろん、犠牲がみたまをもたらすからといって、そのために遠くに住んでいるとか、身体の自由がきかないという事情が必要なわけではありません。何不自由のない状態でも、心から最善を尽くしている女性をたくさん知っています。

ジョアン・スペンサー姉妹(書記)：アリゾナに住む裕福な女性のことを考えていました。彼女の知人に、ためていた伝道資金を重病の母親のために使わなければならない少女がいました。伝道資金は全部病院の支払いで消えてしまいましたが、このすばらしい女性が少女の伝道資金を出しました。彼女もご主人も、自分たちが豊かに祝福されていることをよく知っていたので、それをほかの人々と分かち合う責任があり、またすばらしい機会でもあると理解していたわけです。

質問：既婚者に対して独身者、あるいは外で働いている人とそうでない人というように、異なった道を歩む女性はそれぞれ異なった主張があると思えます。教会の女性が共有すべき共通の立場とは何でしょうか。

ウィンター姉妹：私は教会の初期に女性たちが示した態度に深い感銘を受けてきました。富める者も貧しい者も、共に助け合ってひとつに結ばれていました。自分たちの問題にひとつになって取り組みました。福音の原則に対する私たちの信仰が、私たちを結びつけるのです。もしひとつとなれば、私たちは強く立つ力を得ることでしょう。

ドクシー姉妹：すべての女性は神の娘です。「私たちは戒めを守っているのでしょうか。慈愛を育てているのでしょうか。」女性の地位や女性を取り巻く状況は、私たちに共通するこれらの基本的な質問に比べたら、それほど重要には思えません。

質問：地理的な条件や文化の違いが私



たちの間に多様性をもたらしめていると思います。地元の指導者はそれぞれの必要に合わせて、基本のカリキュラムにどの程度の変更を加えればよいのでしょうか。

ドクシー姉妹：私たちはいつも指導者に、レッスンを「変更する」前にまず「取り入れる」努力をするように言っています。もちろん、様々な文化の中で生活する姉妹たちの必要に応じて変更しなければならないということも承知しています。

エバンズ姉妹：ワード部によっては、不幸な出来事や初めて神殿に参入する人のために、特別な補助教材が必要となるかもしれません。おそらく、大会説教や「聖徒の道」の記事がこのようにときに役立つことでしょう。レッスンの大半はこれらのことを考慮に入れてあります。

質問：扶助協会のレッスンは、教会全体ではどの程度普及しているのでしょうか。

エバンズ姉妹：姉妹たちの反応がそろって積極的なのに驚いています。レッスンをとても楽しみにしており、教師の手腕で反応が大きく変わるようです。大切なことは、現職教師プログラムを活性化して、教授技術を磨く必要があることを常に心がけることです。

ドクシー姉妹：扶助協会の全カリキュラムは、主イエス・キリストへの深い信仰を育むことを目的としています。レッスンはすべて、この信仰を深めるための指針として、福音の原則を強調するようになっています。それは霊的生活のみならず、慈善奉仕、社会、教養、母親教育、家庭管理のいずれのレッスンにも共通することです。

ウインター姉妹：私たちは、すべての女性が、各自に与えられた自由意志の権利と特権と義務を理解して下さることを願っています。もちろん、賢明な決定を下すための知識も必要になってきます。私たちは従順を学び、信仰に一致した生活を送る中で誠実さを身につけ、それによって心に生じる苦悩の大半は防げるのです。人生の目的を見いだしてそれに従って生きるときに、私たちは最も幸せになれるのです。

質問：今や姉妹愛の輪が、日常的に援助を必要としている国々の女性にも及んでいると思います。彼女たちに対して私

たちがなすべきこととは何でしょうか。

ウインター姉妹：私たちは、ほかの人人が享受している祝福にあずかれない地域の姉妹たちに大きな関心を寄せています。私たちの什分の一やほかの献金が困っている人々の生活に確かに役立っています。これは大きな慰めです。

ドクシー姉妹：グアテマラの山岳地帯では、神権指導者たちがトウモロコシの生育方法や土地の休耕法、改良法を人々に教えています。さらに生活改善と子供の栄養指導も学んでいます。こうした努力は神権の管理のもとに行なわれますが、扶助協会も全面的に支援できることだと思います。

ウインター姉妹：神殿建設の偉大な業もそうですね。また什分の一やほかの献金によって、教会の伝道活動を援助することもできます。私たちが今していることが、世界中の兄弟姉妹の生活に実際に恵みをもたらしていることを知る必要があると思います。

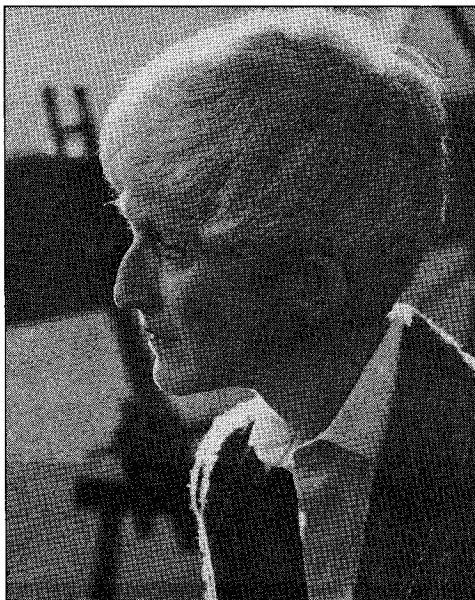
質問：姉妹のおっしゃっていることは、神権の指示による秩序ある援助ですね。

ドクシー姉妹：そうです。組織は整っていますし、必要な手段も入手できます。私たちがしなければならないことは、主が与えられたこれらの手段を活用することです。神権の指示によって、ほかの人人の生活に恵みをもたらすことができるのです。私たちは女性として、自分ばかりでなく教会の使命全体にまで関心を広げ、伝道活動や系図、神殿事業にも活動を広めています。

エバンズ姉妹：ニュージーランドとタヒチに滞在していたときに、女性たちの次のような言葉を耳にしました。「私たちは神殿参入にふさわしくあるために、互いに教え合っています。」すばらしいですね。

ウインター姉妹：扶助協会の目的は、すべての女性が福音への理解を増し加え共に力を合わせ、さらには神権者の協力を得て戦うことです。「力を合わせて戦う」という言葉は、実際的な意味を持っています。実際に力を合わせて戦うことは決してなまやさしいことではないですが、約束を守ることや姉妹愛、福音の喜びといった真の報いをもたらすのです。

(左上) 中央扶助協会会長バーバラ・W・ウインター姉妹 (左下) 第一副会長ジョイ・F・エバンズ姉妹 (右上) 第二副会長ジョアン・ドクシー姉妹 (右下) 書記兼会計ジョアン・スペンサー姉妹



ハワイの奇蹟

ゴードン・ダニエルズが一番よく覚えているのはあの音です。3メートルから5メートルもの高波が岩に打ちつけ、雷鳴のような音を立てながら無情に砕かれると、空一面に水滴が充満したかのように、濃い霧状の様相を呈するのです。その音には話し声もかき消されてしまうほどでした。

その日は曇っていました。紺碧こんぺきの空とふんわりとした白い雲という組み合わせは望めようもなく、暗く不穏な風がゴォーと岩壁に吹きつけていました。

その午後、2カ月あまり続いたパイナップルの取り入れを終えた十代の少年たちが、ハワイの西、マウイの北海岸を見学していました。その日は最後の1週間の仕事が始まる前の休暇の最終日で、仕事が終わると1週間の島巡りのツアーをしてから合衆国本土へ帰ることになっていました。ゴードンが監督していた少年たちのほとんどは、もうすでにトラベラーズチェック（旅行者用小切手）をポケットの中に押し込んでいました。波が海岸の岩にあいた穴を通して噴水のように吹き上げる壮大なブローホールのことを彼らは耳にしていました。ブローホールは北海岸にある平たいテーブルのような岩の真ん中にあります。

来てみて皆びっくりしました。島の北側は荒涼としていて、それまで見慣れたハワイとはまったく違ってきます。地形は月の写真を思わせ、どちらを向いても1本の草も木も、また海岸にはひと粒の砂さえ見当たりませんでした。溶岩でできた、切り立ったのこぎり状の岩壁が海中深くへと落ち込んでいました。

その日、各々12人から成るふたつのグループにそれぞれ監督者がつき、トラックとバンに乗って一緒に出発しました。



クリス・マツケイ



ダグ・カールソンのグループの少年たちは、ゴードンのグループより2、3分早くその場所に着きました。ゴードンとそのグループが、岩板の表面の平らな部分へと向かってごつごつした坂をゆっくりと下りて行くと、もうダグのグループの少年たちが5、6人、穴のまわりに座って端に足をかけてぶらぶらさせているのが見えました。だれもそれが特に危険なことだとは思いませんでした。海水が吹き上げてくる直前に足を引っ込めるのは、スリルに満ちたおもしろいゲームだったからです。35秒から40秒ごとに波が下の岩に打ちつけ、すさまじい勢いで圧縮された海水が穴を通り、しぶきとなって空中15メートルの高さにまで吹き上げます。そして1、2秒たつとヒューッという音とともに90センチ幅の穴の中へ戻って行くのでした。それはそれは痛快な光景でした。

あたりは一面ぬれていてすべりやすく、ゴードンのグループの少年たちは、海の方にすべり落ちないように注意し合いながら、足早に穴の方に向かいました。すべってがけから落ちたら、と思うとぞつとしましたが、それは非現実的なことのように思え、実際に起こるとはだれも予想しませんでした。

すると何の前ぶれもなく、とてつもなく強い潮が吹き上げ、彼らは10メートル近くも吹き飛ばされました。とたんに叫び声がありました。「マイクはどこだ。」だれかが泣き叫びながら答えました。「ブローホールの中へ吸い込まれた。」

不思議なことに、自然の音は脅威の音となるや、今までとは違った響きをもって聞こえてくるのです。数秒前まではわくわくするような音だったものが、今や恐怖の音へと変貌へんぼうしました。

青ざめたふたりのリーダーは、飛んで行ってブローホールの深い穴の中を恐る恐るのぞき込みましたが、中は真っ暗でした。次に吹き上げてきた潮にもう少しでさらわれそうになり、ふたりはどうすることもできませんでした。

皆、半狂乱になってマイクの名を呼びましたが、答えはありません。

ところが、それから3度目と4度目の噴出の間に、何とマイクの声が聞こえたのです。しかもはっきりと聞こえました。「ここだ。ここだよ。大丈夫だ。」皆、ほっとして力が抜けてしまいました。海水が噴出するたびに、マイクのバラバラの死体が上がってくるのではないかと思っていたからです。

少年たちは一斉にスポンを脱ぎ、結び合わせて急場しのぎのロープを作りました。下からの声がやみました。彼らはロープを穴の中に下ろし、マイクにつかむように叫びました。

波は相も変わらず、容赦なく岸に打ちつけ、噴出は絶え間なく続きました。2度ロープを下ろしましたが、2度とも吹き上げる潮ではね返されてしまいました。

マイクの親友の少年が穴の中へ下りてみると申し出ましたが、その考えはすぐに反対にあいました。何世紀もの間波で洗い流された岩の表面には、浸食のために足場になりそうなところはまったくないのです。

ダグ・カールソンは背を丸めて座り込み、青ざめた顔で穴の中をじっと見つめました。「どうしたらいいんだ。何とかして彼を助けなくては。」

そのときだれかが、「向こうに何か浮かんでいる！」と叫びました。マイクでした。彼はコルクのようにプカプカ浮かんでおり、明らかに意識不明でしたが、不

思議なことに頭はほぼ垂直に水から出ていました。

ダグは「助けなきゃ」と言って立ち上がりました。「泳げるのか。」そう聞いたのはゴードンです。「自信はないが、彼はぼくの生徒だ。やってみなきゃ。」

グレッグ・パーカーが口をはさみました。「ぼくは泳げます。」彼は打ちつける波の音に負けじと大声で言いました。「ぼくはイーグルスカウトです。人命救助の技能賞も持っていますし、きっとやってみせます。」

そこで、ハンサムでたくましく、自信に満ちたグレッグは、ゆっくりと注意深く岩を渡り歩いて海へ入っていきました。マイクは、溶岩の露出した危険な鋭い岩先にだんだん近づいていきます。グレッグは力強い泳ぎでマイクのところへたどり着き、胸を抱きかかえるようにして、マイクを外海へ引き戻しました。

しかし、どこへ行けばよいのでしょうか。岸へ向かえば、打ち寄せる波で岸壁にたたきつけられてしまいます。波のしぶきははっきりなしに顔をぬらし、息も思うようにできません。海水は塩辛く、飲むとすぐに吐き気をもよおし、いくら強じんな泳者といえどもだんだん体力が弱まります。グレッグは次第に力が抜けていくのを覚えました。

「だめだ。……助けがいる。」岩場で海面を見下ろしていた少年たちにやっと聞こえるような声でした。

スティーブ・ダドレーが叫びました。「グレッグ、待ってるよ！」そしてあっという間に、たけり狂う海の中に飛び込んでしまいました。さあ今や、ひとりではなく3人が死の危険にさらされているのです。

けれども、スティーブがふたりのとこ

ろへ泳ぎ着くと、マイクはいくらか意識を取り戻しました。

マイクはあの恐ろしい出来事を思い出しました。引く波にさらわれてブローホールの中に吹込まれ、岩板の下4メートルの岩棚に落ちたのです。一時何とか岩にしがみついていたが長くはもたず、何トンもの水流が勢よく海へ戻る際、水平なトンネルの中へ投げ落とされ、海へと吐き出されてしまったのです。

さて、グレッグとスティーブは力を合わせ、ゆっくりとマイクを岸壁から離れた海の方へ連れて行き、さしあたり何とか危機は脱しました。ゴードンはダグ・カールソンに向かって言いました。「ちょっとひとりになりたいんだ。すぐ戻るから。」

彼は大きな岩の陰に入り、ひとりきりになると、主に強く嘆願しました。少年たちを無事に海から救い出すのを主が助けてくださるなら、あらゆるものを、神が彼に望まれるものはどんなものでも喜んで捧げると約束したのです。

岩陰から出たゴードンは、約10メートル右手に、小さな入江があるのに気づきました。そこも岩場でしたが、少しはましに見えました。たぶんそこまでたどり着けば、ヘリコプターを呼ぶまで待てるのではないかと思いました。彼らはもうすでに20分も波と戦い、急速に衰弱している様子です。風と波の音の合間に、彼らの祈る声が聞こえました。「神様、助けてください。」岸にいる少年たちも集まってひざまずき、輪になって祈りました。ゴードンは立ち上がって、輪の外へ出ました。ひとつの考えが浮かんだのです。こういう声を聞いたような気がしました。「海を静めなさい。」

最初彼にとっては、そのような力を呼

び起こすことができると考えることさえショックでした。確かにモーセは海を分けることができましたが、彼は凡人ゴードン・ダニエルズです。ゴードンは、自分の理解をはるかに超えたことを行なおうとしている自分が恐ろしくなりました。その声は2度、3度と聞こえてきました。「海を静めなさい。」そしてとうとう彼の頭はその考えで一杯になりました。ただ「いつか神様の力を濫用したことの責任を問われるのではないだろうか」ということが気がかりでした。

彼は天に向かって手を差し伸べ、イエス・キリストのみ名によって、少年たちが救われるまで海に静まるよう命じました。祈りの輪を作っていた少年たちは、命令を繰り返すゴードンのまわりに再び集まって来ました。

彼が言葉をかけるや否や、今までひどく荒れ狂っていた波が静まり始めました。ふたつの巨大な波が相反する方向——今までそのような方向から波が来たことはありませんでした——からやって来て、くたくたに疲れ、息も絶え絶えになった少年たちの方角に向かって合流しました。斜めに進む波に乗った少年たちは、小さな入江に向かって15メートルほど進みました。

ひとりが、少し前にトラックから持ってきていた発砲スチロールの浮き板を、あらん限りの力で投げつけました。それと同時に、最初のふたつの波と同じような一對の波が再び合流し、少年たちを入江の岸近くまで運んでくれました。スティーブが浮き板を捕らえ、それを波乗り板のようにしてマイクの体の下に入れ、数秒後には助けることのできる地点にまで到着しました。

残るは、その入江の岸壁の問題をどう



にかしななければならないということです。どこからともなく現われて2度までも彼らを運んでくれたあの奇跡的な波が、彼らを固い岸壁に打ちつけて砕いてしまう可能性があることは明らかでした。

ゴードンは波がうねり始めるのを見るや否や走り出しました。疲れ果てた少年たちが岸壁に打ちつけられることだけは避けなければなりません。

彼は腿まで水につかりながら、マイクのところまでたどり着きました。そのとき波が再び押し寄せ、ゴードンとマイクは大波にのまれてすっかり水中に没してしまいました。ゴードンは両手を頭上に差し上げ、息を止めて水中からマイクを上の方の岸壁で待機している人々の手に渡し、次に、グレッグをも同じようにして助け出しました。スティーブは浮き板をはずし、ゴードンが行き着く前に岩の上に投げ出されてしまいました。そのときわき腹をひどくすりむきました。マイクは半ば意識を失った状態でしたが、とにかく3人も無事水から上がりました。

全員疲れ切って、ぐったりしていました。「マイクはどこだ」というあの最初の驚きの叫び声から、およそ45分の劇的な時間が経過していました。皆そばの適当

な岩によりかかってひと息つこうと思いましたが、ゴードンは一刻も早くこの場から立ち去らなければならないという強い気持ちを感じ、彼らは岩を登り始めました。

ひとりの少年が、入江の岩に結びつけたままのズボンのポケットに、トラベラーズチェックが入っているのを思い出しました。それを取りにブローホールへ戻ろうとしたところで、ゴードンがあわてて叫びました。「戻るな。放っておけ。ここから離れるんだ。」

彼らはマイクを腕にかかえて運び、ゴードンが最後に出ました。見納めにと振り返ると一筋の光が雲間から差し込んでいました。もう5時でした。疲れ切っていました。全員無事であったことに感謝の念で一杯でした。

海のかなたを見やると、今まで見たことのない、先がなめらかな波が彼らの方に向かって押し寄せてきます。驚いて見入っていると、波頭に黒い渦を作って、ちょうど置き忘れたズボンの真上にやってきて砕けました。波が引いた後は、岩の上には何も残っていませんでした。ズボンは影も形もなくきれいにのみ込まれ

てしまいました。

一行はマイクをできるだけ高い崖の上まで運び、タオルで身体をくるんでやりました。

地元の消防署員が、マイクとグレッグとスティーブを近くの病院へ運びました。手当てを受けたのはわき腹にすり傷を作ったスティーブと、肺に海水が入ったマイクだけでした。医師はマイクを検査のため一晩入院させましたが、話を聞いてびっくりしました。それまでにもあのブローホールへ落ちた人が何人かいたのですが、生存者はひとりもなかったからです。

スティーブとグレッグは、マウイ郡の市長から表彰されました。

ゴードンは、マウイの荒涼とした海岸であの日の午後味わった絶望感を思い出すと、今でも背筋が寒くなります。しかし同時に、あの奇跡の場面に直接加わる特権を得たことについて考えると、驚きの気持ちで一杯になるのです。ゴードンは、あのとき主と交わした約束を決して忘れたことはありません。

ダリン・H・ オークス長老

ほかの使徒たちを見習って

ドン・L・サール

もし1984年4月以前に合衆国最高裁判所に欠員ができていたとしたら、ユタ州最高裁のダリン・ハリス・オークス判事が候補者にあげられたかもしれません。彼はその地位を**嚮望**されていました。ワシントン・ポスト紙の最高裁担当記者は、オークス長老の十二使徒就任を知り、さっそく電話で、それが連邦最高裁判所判事候補の資格を放棄するものかどうかを質問してきました。

オークス長老は、確かにその通りであることをじっくり説明しました。

裁判官の役職も生涯の仕事です。それも実に重要な奉仕のひとつではないでしょうか。

オークス長老はそのことを認めていますが、このたびの奉仕に勝るものではありません。

主イエス・キリストの使徒という彼の召しが及ぼす影響を知る人々に対して、オークス長老は「この召しを喜んでいきます。とてもうれしく、働ける日が待ち遠しいです」と語ります。

召しの意義を理解した大勢の人々が、すぐさま電話で愛を伝えてきました。教会幹部も歓迎の電話を寄せました。

オークス長老が、十二使徒であろうが、年老いた母親の友人であろうが、どの相手に対しても同じ丁重さで応じたことは、この人の人格をはかるひとつの尺度と言えるでしょう。

1971年から1980年にかけてブリガム・ヤング大学学長であった当時の彼の秘書、ジャネット・コルダは、「オークス長老はどのような人に対してもいつも丁重でいらっしやいます」と言います。

丁重でありながら率直で、外向的では

ないが確かな熱意を秘めた人。コルダ姉妹は述懐します。オークス長老があるとき、訪問客を接待していて会話がふととだえると、話題が自分たちが受けた教育に変わりました。学長がそれに対して、自分は積極的な気構えを開発する訓練を何ひとつ受けていないと話しました。するとひとりの客が、「とんでもない、それはおやめください。もっとやる気になられたら、とても身が持ちませんよ」と言いました。

「オークス長老はてきぱきと物事を処理なさいます。働くことがお好きなのです。」コルダ姉妹は語ります。それはだれしも認めるところです。オークス長老は「一に仕事、二に遊び」というモットーをよく話にあげますが、家族は冗談に、本当のところは「一に仕事、二、三がなく四にも仕事」だと言います。

「遊ぶために何かをするというのではないんです。していることを楽しむという感じですね」とオークス長老は説明します。

「時は管理するものです。時間の浪費はすまいというのが私の目標です」と、1981年のインタビューで語っています。

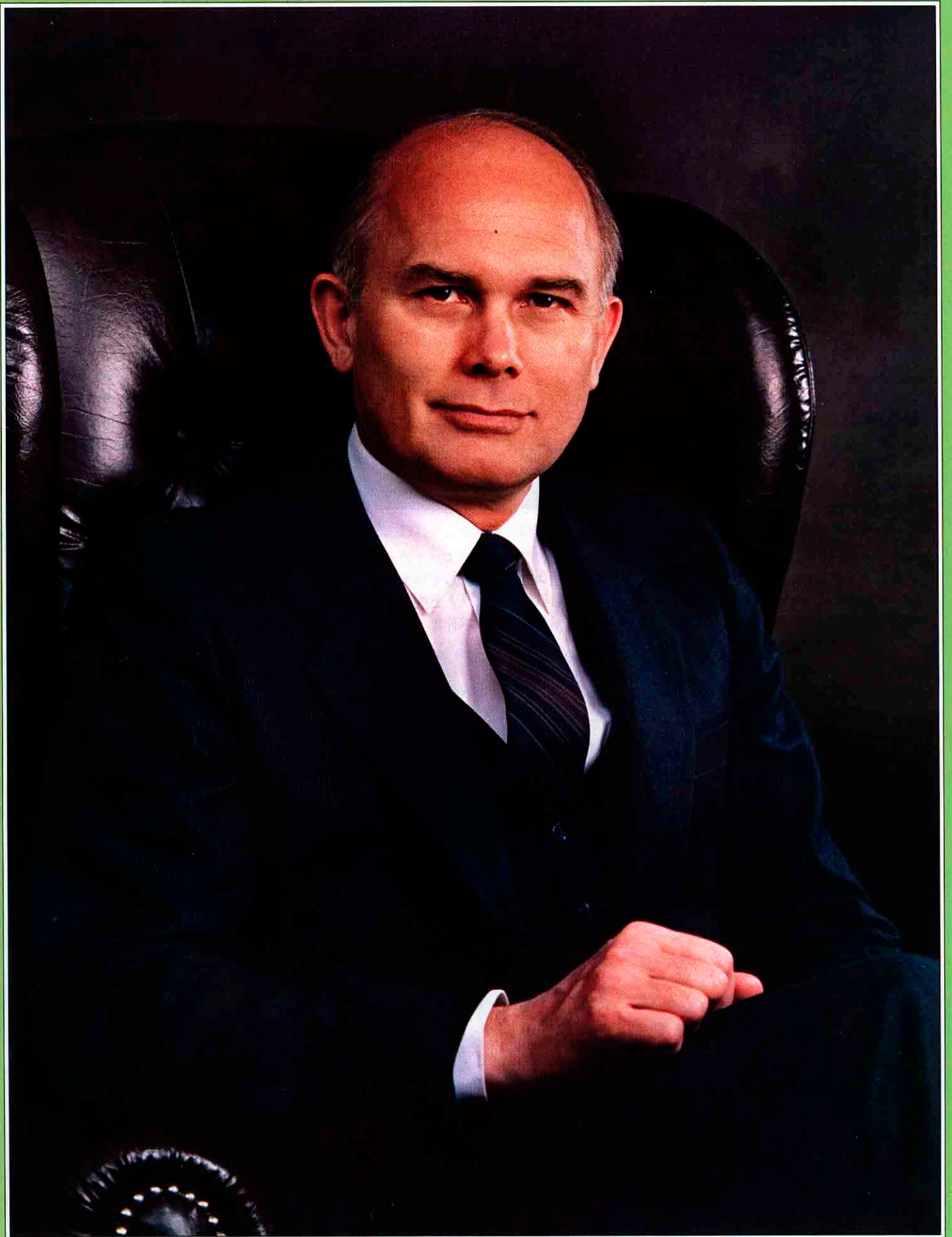
オークス長老は1932年8月12日、ユタ州プロボで生まれ、早くから就労しました。父親の死後わずか3、4年で、未亡人の母親を助け、家計のたしに働き始めました。父ロイド・オークス博士が結核で死ぬと、あとにはまだ若い妻のステラと、当時8歳の長男ダリン、現在はユタ州プロボ在住の眼科医メリル、ソルトレーク・シティー在住のH・ロス・ハモンド夫人エベリンの3人の子供が残されました。



ダリン・オークスとジューン・ディクソン。ブリガム・ヤング大学在学中の1952年に結婚。

「私はすばらしい母親に恵まれました。母は実に、末日に生まれた立派な女性たちのひとりでした。」オークス長老は母親を、「深い信仰」を持った「大変有能な親」で、生まれつき実行力に富んだ女性であるとたたえています。家族以外にも大勢の人がそれに同意します。ステラ・オークスが1980年に死去するときには、プロボの教会と社会福祉とに顕著な業績を残した人として名を成しました。

「母は私にたくさんの責任と自由を与えました。職を持つように励ましてくれました。」「11か12の年で」お金のために働き始めたときから、彼はずっと職に就いています。



最初の仕事はラジオ修理店の掃除でした。床に落ちている真空管がまだ使えるかどうかを調べるのも仕事で、そのためラジオに興味を持つようになりました。オークス長老は持ち前の熱心さで勉強しました。16歳で第1種無線免許を取り、商業向けラジオ局の送信機を扱うことができて、ラジオ関係の仕事が見つかりました。局の担当者は技師もアナウンサーもこなせる「両刀使いの人」を雇いたかったのですが、「私の声は相変わらずでした」とオークス長老は笑います。しかしほどなく、変われば変わるもので、彼はアナウンサーとして定期の仕事を受け持つことになりました。

夫人との初対面は、大学1年で高校のバスケットボールの試合のアナウンスをしているときでした。近くのスパニッシュフォークの高校に通っていたジュン・ディクソンを、試合会場で人から紹介されたのです。

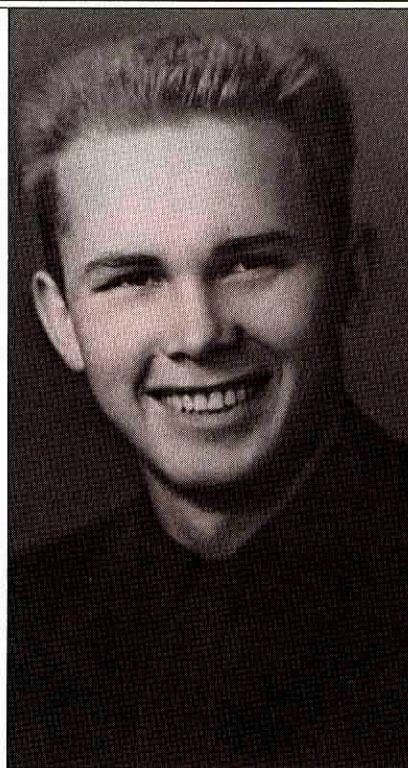
ふたりは1952年6月24日に結婚しました。両方ともBYUの学生のときでした。折しも朝鮮戦争たけなわで、オークス長老はユタ州民軍に入り、いつでも召集を待つ臨戦態勢にありましたが、近隣部隊が戦争に加わる中、彼の部隊は戦場に赴くことはありませんでした。戦争中のため、当時伝道に召される青年は少数で、ワード部の割り当てに空きがなく、彼は宣教師になりませんでした。

「夫は伝道に出られたらよかったです。これまでいつも考えてきたと思います。でも後にシカゴのステーク部伝道部長をしましたし、伝道部長も立派に務めましたよ。」ジュン夫人は語ります。

彼女は早くから夫の力量を認めていました。オークス長老はBYUの大学生時代を通じて、週30時間ラジオ局で働き、後半はふたつ目の仕事として家具運送会社のマネージャーも勤めました。

会計学の学士号を得た後はシカゴ大学法律学部に進学しました。(このときにはシャーモンとシェリーの女の子ふたりがオークス家に恵まれています)彼は学費を借金して学業に専念し、最終年度には学校の名だたる法律評論雑誌を編集して、優秀な成績で卒業しました。

「夫が法律大学院に通っておりまして、朝出かけるのは毎日7時で、帰宅は夜の11時でした。日曜日以外は」とジュン夫人。「ぼくより賢いやつが法学部にはわんさといけるけれど、ぼくより頑張



る者はひとりもないよ」と言ったオークス長老の言葉を記憶しています。

「苦しい時代でした」と夫人は言います。しかし彼女は、不仲になって夫をみじめにする女子学生が多い中で、その間違いは犯しませんでした。精神的に自立して、自分の世界を伸ばしていく必要があることを悟ったのでした。

卒業後、ダリン・オークスは勤勉と学力を認められ、合衆国最高裁判所のアー・ウォーレン裁判長の書記の仕事に抜擢されました。任期を終えた1年後に、彼はシカゴへ戻り、開業します。

息子のロイド・オークスは法律大学院在学中の最後の年に生まれ、もうひとりの息子ダリンと末から2番目の娘トルアンはシカゴ時代に生まれています。

この時期はオークス長老が教会活動に大きな進展を見た時期です。1961年にシカゴステーク部のステーク部伝道部長に召されました。仕事が夜にもわたるため、この新しい召しを果たすことができるかどうか彼は心配していたとオークス姉妹は語りますが、オークス長老は信仰をもって召しに臨みました。責任に全力を注ぐとき、道が幾度となく開かれて、仕事

娘のシェリー(左)とシャーモン。父親がブリガム・ヤング大学を卒業して法律大学院に進んだ頃には、共に家族に加わっていた。

高校時代、若きダリンはユタ州プロボのラジオ局でアナウンサーの仕事をした。

を早く終えたり、時間内に思ったより多くのことができたと言います。

1961年、シカゴ大学法科に勤務する機会が訪れました。オークス長老は報酬とチャレンジを求め、それを受けました。

1963年にはシカゴ南ステーク部の第二副ステーク部長に召されました。リスル・R・カフンステーク部長、ジョン・ソネンバーグ第一副ステーク部長と共に働きましたが、3人はいずれも十二使徒会地区代表の職に就いています。(ソネンバーグ兄弟は1984年10月、七十人第一定員会会員に召されました)

ダリン・オークスは教会の責任が変わらぬ積極さをもってあたりました。ソネンバーグ長老はこの同僚が日曜日を主のために取っておいたが、それはいわゆる「堅苦しい」ものではなかったことを思い出します。彼の奉仕と聖典の勉強は、神を知ろうという誠実な努力の一端であったことがよくわがわれました。

この時期、オークス長老は多くの責任に忙殺されました。そのひとつがシカゴ大学懲罰委員会の委員長で、1969年2月の17日間に及ぶ学生による大学本部座り込みに対する懲罰決定に際しては、彼の公正さと外交手腕が学生、教職員、地域の賞賛を集めました。

1964年の夏に法律大学院の副学部長および学部代理、1968年の夏はミシガン大学法律大学院の客員教授となり、1970年にはイリノイ州クック郡州代理人補佐として法曹界に名を高めました。この年に、イリノイ州憲法制定会議の権利宣言委員会法律顧問、1970年から翌年にかけて



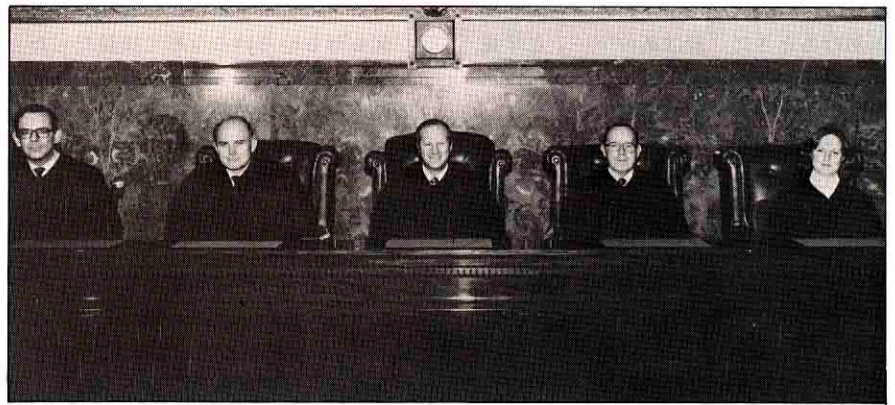
はアメリカ弁護士協会の理事として働きました。

1970年、ソネンバーグ兄弟がシカゴ南ステーク部ステーク部長に召されると、第一副ステーク部長にダリン・オクス兄弟を選びました。しかしその期間は長くはありませんでした。ステーク部長がよく感じる霊的直感で、「アーネスト・ウィルキンソン氏 (BYU学長) が退職されたとき、その後任としてダリン・オクス氏が召されることがすぐわかったのです」とソネンバーグ兄弟は語ります。

オクス学長はBYU在職中に多方面に業績を残しましたが、特に力を入れたのは学術の振興でした。彼はまた、政府の私立学校教育への干渉に反対の立場で国内に名を知られ、全私立大学の代弁者と目されました。アメリカ独立大学、単科大学学長会の会長を3年間務めています。

BYUの現学長ジェフリー・R・ホランドは、前任のオクス長老を、「能力と活動力が絶妙に混合した」人物、「無類の分析的判断は、法律を学んだ賜物ではあるが、もっと大きなこととして天性の直感が彼にはある」と評します。

ダリン・オクスがBYUの学長を辞し



十二使徒に召される前、ダリン・オクスはユタ州最高裁に勤務していた。オクス兄弟は左から2番目。

た後、1981年1月1日、ユタ州最高裁判所に奉職した後も、公職に立候補する機会や連邦政府の要職への勧誘がありました。「仕事としてやりたいことは、判事以外に考えられません」と言う彼は、それらの勧めをみな断りました。

しかし、それにも優先する仕事がありました。1971年、当時第一副管長であったハロルド・B・リー長老からの電話が、彼をBYUに向かわせ、人生の道を変えましたが、1984年4月6日の夕刻には、第二副管長のゴードン・B・ヒンクレー長老

から再度電話がありました。ダリン・オクスはまたもや、喜んで新たな方向へ人生のかじを変えたのです。「教会での働きは、自分から求めるものではありませんが、同様に、断わるものでもありません」と彼は言います。

BYUの学長時代、マンモス大学の統率者という役割が、この人の霊的側面を一時的にせよ影薄くしていたことはあるでしょうが、身近な人たちには彼の本来の姿がきちんと捕らえられていました。「ダリン兄弟は、常時主のみたまに頼って歩むまっすぐな人ですよ」と、合衆国法務次官であり、BYU・J・ルーベン・クラーク法律大学院の前学部長であるレックス・リー兄弟は評します。彼によれば、オクス長老は「地位の飾り」に目をくれず、並はずれた能力を誇示することのない人でした。「彼は謙遜の模範です。まったくうぬぼれない人です。」

BYUでオクス長老の話聞いた人々には、彼が福音の原則をいかに大事にしているかがよくわかります。彼は、霊性を一歩先に置いて、その霊性と学問とのしっかりした結合を説きました。モラルや悔い改めや啓示についてよく話しました。生活全般にわたる正直や誠実は、頻繁に取りあげられるテーマでした。

「父をひと言で言うなら、高潔という言葉だと思います。不まじめなことは決してしないことが、私にはいつもわかっていました」と娘のシャーモン (ジャック・ウォード夫人) は言います。彼女は、届いた封筒の切手に消印が押されていないため、また使えるようにはがそうとして、父親に叱られたことを覚えています。

シャーモンは、父親が学長になった年



1971年、ブリガム・ヤング大学学長就任式に際して撮影された記念写真。居並ぶ教会幹部は、左から当時は第一副管長のハロルド・B・リー長老、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長、N・エルドン・タナー第二副管長、オクス長老、2列目左から十二使徒のマーク・E・ピーターセン長老、現第一副管長で当時は十二使徒のマリオン・G・ロムニー長老、十二使徒のリブランド・リチャーズ長老、後列左から現七十人第一定員会会長会会員で当時は十二使徒補助のマリオン・D・ハンクス長老、七十人第一定員会のA・セオドア・タトル長老。

にBYUに入学しました。教師が名簿を読みあげるときに「君はあの……」と学長との関係を尋ねようとしたが、だれも言いかけたままそれきりであったと、彼女は笑います。

シカゴ時代に比べれば、BYU時代は忙しくなかったとロイドは話します。父親が家にいる時間がずっと長くなりました。「毎土曜ごとぐらいいに、みみずを持ってスパニッシュフォーク川に一緒に出かけて釣りをしました。」しばらくしてロイドが釣りに飽きて、石を集めたり石投げをしたりし始めても、父親はまだ釣りを続けました。(後にロイドはBYUを卒業して地質学の学位を得ています) ジューン・オークスは、そういう父親だと言います。「釣りをするとすれば、判例集を読むときと同じように、真剣に釣りに没頭するのです。」

現在、デカレブにある北イリノイ大学で法律を学んでいるロイドは、父親が教会幹部に召されても驚きませんでした。「これまでの生涯、父はみたまとごく近しかったですから。」ある晩ロイドはパーティーに行くのに車を借りたいと頼みました。バックさせて出かけようとしたとき、父親がやって来て、良くないという感じがするので行かない方がいいと勧めました。後でわかったのですが、ロイドの行ったはずの道を別の車が暴走してきたということで、直感の警告の声だったのです。

シャーモンも、父親はみたまに近い人だと言います。高校時代に、家に遅く帰り、おやすみのあいさつを言うために父母の寝室に行くと、父親がひざまずいて

祈っていたことを思い出します。

父も母もいろいろな形で模範だったとシャーモンは話します。「私たちの感謝していることがあるんですが、それは両親が愛し合っていたということです。」

子供たちも友人も、ダリン・オークスの成功は、ジューン夫人を語らずして語れないと言います。オークス長老自身もうなずきます。「妻は私から最良のものを引き出してくれました。妻なしではどこにもたどり着けなかったと思います。」

「ジューンは私が高慢にならないように、うぬぼれないように助けてくれました。」

ジューン夫人は会う人々に好かれる実に素直な人柄だと、夫は言います。BYUの学長であったときに、合衆国最高裁判長、ソビエト最高裁判長そのほかの随員、合衆国前大統領ジェラルド・R・フォード、大管長会の3名、そのほか教会幹部を、パーティーでもてなしたことがあります。彼女は「だれに対しても、まるで家に仕事にやって来た職人に対すると同じにくつろいだ調子で対応していました。」

オークス長老は、8歳の娘ジュニーのバイオリンに、ギターを持ってきて伴奏するような素敵な母親です、とジューン夫人を語ります。ジュニーはクラシック音楽を練習するはずが、ときどきカントリーミュージックに脱線してしまうのです。

「妻は娘たちの親友なのです。ただ母親というのではなくて、一番の友達です」と、オークス長老は言います。

ジューンは、勉学から教会の召しに至るまで、夫は自分の活動をいつも心から

支持してくれていたと言います。社会学の学士号を取得するときは、何回かの夏をしばらくの期間、夫をシカゴに残して子連れでプロボの大学に出席しなければならない状況でも、妻を応援してくれました。

オークス姉妹は、「夫は根っからの教育者です」と言います。ためになりそうなおもしろい記事をよく自分に回してくれるのだそうです。

オークス長老はいつも何かを読んでいます。「夫は3、4種類の新聞を毎日読みます。」ワシントン、ソルトレーク・シティ、プロボ発行の新聞に加え、教会の雑誌や法律雑誌、そのほか各種の定期刊行物です。読み方は決まっています。朝は頭がさえているうちに専門的な記事で、軽い記事は後回しになります。読む本は常に手元にあります。「信号で待つかなと思うと、何か読む物を持っていくような人なんですよ。」

読む本の種類は、新しい召しに伴っておそらくいくらか違ったものになるでしょう。しかし、目指す目標は変わりません。公務に就き、管理経験が長いにもかかわらず、今長老は、「自分にとって長所よりも欠点の方がずっと重要だと思うのです」と語ります。

地区代表を6年半、ステーキ部長会で9年働いてきても、彼はほかの教会幹部のように監督や伝道部長や神殿長の経験がないと言います。教会の教育機関で聖典をもとに教えたこともありません。「教会の霊的な領域に私のしていないことがあまりにたくさんあるので、自分は非力だと感じています。」

新しい召しを受けて、どこから仕事はスタートするのでしょうか。

「ほかの使徒の方々を見習って、彼らのしてこられたことをしようと思います。ご用を仰せつかりたいと思っています。」

友人のソネンバーグ長老はオークス長老を、いつも「主と家族をまず一番に愛して、仕えてきた」この召しにふさわしい人であると言います。

「王国の大きな責任に選ばれる人だということは、ずっと以前から私にはわかっていました」と。

ブリガム・ヤング大学学長に就任直後のオークス一家。後列左からオークス姉妹、シェリー、シャーモン、ロイド。前列、ダリン・D、オークス長老、トルアン。



質疑応答

●本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

私は執事ですが、聖餐式のパンと水の順序に何か特別の意味があるのか知りたいたいと思っています。パンを受けられなかった人がいた場合、水を先にあげてもかまわないでしょうか。それともまずパンからすべきでしょうか。

解答者

ケント・E・パルシファー

(サンディー・ユタ東ステーク部
サンディー第20ワード部監督)

あ あなたの質問は神聖な事柄を問う実に重要なものです。執事であるあなたが、聖任された職とその義務に洞察力と靈感を働かせていることが伝わってきます。アロン神権を受けた者が、主から託された使命の意味に深く思いをさせることはすばらしいと思います。

アロン神権の兄弟たちが正しく準備をし、パスをし、聖餐の象徴を祝福する姿は、年下の教会員に大きな影響を与えます。主イエス・キリストは、最後の晩餐の席でご自身からこの聖餐を定められました。(マタイ26:26-28参照)そして主の十字架上の死と復活のほんの少し前に、注目すべきこの出来事が行なわれたのです。犠牲を捧げることが終わりを告げると、代わりに「へりくだりたる心と悔いる精神」が捧げられました。さらに悔い改めとバプテスマのときに結ぶ新しい契

約が定められ、パンと水の聖餐に毎週あずかることでその契約を新たにします。(教義と聖約20:71-74参照)この契約には、流された血と肉体に受けた苦痛によるキリストの犠牲を思うこと、イエス・キリストのみ名を身に受けること、さらに常に主を忘れず、またその下したもう戒めを守ると証することが含まれています。(教義と聖約20:76-79参照)その結果として、「御子の『みたま』常に一同と共にましますように」と約束されています。

聖餐会で聖餐を執行するときの雰囲気について、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べました。「私の考えでは、聖餐会は教会の集会の中でも、最も神聖で、最も厳かな会である。」(ブルース・R・マッコンキー編「救いの教義」3:18)

1983年4月の総大会で、デビッド・B・ヘイト長老は聖餐についての説教の中で、聖餐の讃美歌がいかに一人一人を変えるのに役立つかを次のように語っています。「このように私たちは、若い頃から、みたまを感じるには心を改めなければならず、またこの神聖な会では聖餐の讃美歌を歌って一致を図る必要があるということをも身をもって学んでいたのです。讃美歌を一人一人が歌うことによって、私たちの心は聖餐という霊的な儀式を理解できるようによく備えられました。」(「聖徒の道」1983年7月号, p.21)

儀式の次第に関して、主はニーフアイ第三書第18章で、儀式の順序と形式について詳しく述べておられます。「さて、イエスは弟子たちに自分のところへパンと葡萄液とを持って来よと仰せになった。

……イエスはパンをとってこれを裂き、また祝福して弟子たちに与え、これを食えと仰せになった。弟子たちがこのパンを食べて(みたまに)満されると、イエスはこれを群集にも与えよと言いたもうた。……イエスは……弟子たちに杯の葡萄液を飲めと言ひ、また群衆にも与えて飲ませよと言いたもうた。」(IIIニーフアイ18:1, 3, 4, 8)

私たちの心を新たに誓約を立てることに重きが置かれているとはいえ、主が示された式の次第や手順には従わなければなりません。「汝らも常にかくのごとくこの儀式を行わざるべからず。」(IIIニーフアイ18:6)そしてジョセフ・スミスが教会を組織すべき「くわしき」日取りについて啓示を受けた日に、この儀式の完全な次第が強調されています。(教義と聖約20, 前書き参照)この章に限らず、ほかの聖句でも聖餐の祈りの正確な言葉(教義と聖約20:77, 79; モロナイ4:3; 5:2)と、パンと葡萄液(後に水)の儀式を執行する順序が規定されています。両方の祈りに見られる言葉遣いのわずかな違いは、誓約を守る段階を示しています。すなわちパンの祝福では、「喜びて御子の御名を受け」と言い、次の水の祝福では、「御子を常に忘れぬこと」と祈るのです。

儀式が正しく執行されるなら、私たちが礼拝で経験する神聖な面は若人の生活そのものを祝福するばかりでなく、後に主の神殿で受けるさらに「くわしき」誓約や儀式への備えとなり、「キリストの弟子」としての自覚を促すことになるのです。

「私たちがなし得る
最も大切な業は、
私たちの家庭の中で
行なわれる。」

ハロルド・B・リー大管長